



ひとつひとつのアクションが、
まちの未来につながっていく

皆さんの何気ない日常の一步一步が、
SDGsの推進につながり、としまの未来をつくっています。

アートカル × SDGs



「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」。
それは、としまが目指す
国際アート・カルチャー都市のすがたです。
大切にしているのは、
豊島区に住む人、訪れる人、働く人、学ぶ人、
それぞれの「笑顔」。

これまで豊島区が大切にし、守り続けてきた
あたたかい日常を育む文化は
誰一人取り残さない社会を目指すSDGsに通ずるもの。
豊島区では、「みんなが主役」をキーワードに、
より一層「オールとしま」のつながりを強め
SDGs達成に向けたアクションを進めていきます。

そして迎える2032年、100周年のとしまのまちを、
みんなで一緒に、笑顔で誇れるように。

SDGs未来都市 豊島区

【目次】

お知らせ

- ・豊島区におけるSDGs推進を掲げ、池袋に「SDGsシンボル」を設置
- ・今年の「としま文化の日」は、「SDGs×文化」をテーマに多彩なイベントを開催
- ・今年も開催！ファーマーズマーケット@IKE・SUNPARK
- ・「SDGs未来都市」対談企画 岩手県岩手町佐々木町長×高野区長
- ・記者会見レポート：池袋駅の東西をつなぐ改革建築家・隈研吾氏が監修するウォーカブルなまちづくり
- ・「としまSDGsウィーク」開催中！3月は多彩なイベントを開催
- ・大阪府／万博記念公園で行われた「Warai Mirai Fes 2022 ～Road to EXPO 2025～」に「チームとしま」ブースを出展
- ・「オールとしま」でつくる九〇周年が本格始動！第二回区制九〇周年実行委員会を開催しました
- ・まちの賑わいを支える「オール企業としま」の輪 第一回 豊島区制施行九〇周年企業実行委員会を開催
- ・まちの企業から子どもたちへ「学び場」のプレゼント。「としまで学ぶ夏の1日」
- ・子どもたちとともに育つ森「いのちの森」記念植樹二〇二二
- ・SDGsの基礎を学ぶ第一回「企業のためのSDGs 推進支援セミナー」を開催しました
- ・自社の取り組みを「分析」。第二回「企業のためのSDGs推進支援セミナー」
- ・「オール企業としま」の輪を広げ、官民連携のモデルケースへ。第三回九〇周年企業実行委員会開催
- ・100周年に向けた新たなスタートの幕開け。豊島区制施行90周年記念式典
- ・ビジネスにおける「ルールチェンジ」を学ぶ。第三回「企業のためのSDGs推進支援セミナー」
- ・としまの将来を担う子どもたちとともに。豊島区教育委員会「SDGsフェスティバル」を開催しました
- ・一人ひとりの個性が輝くまち・としまを目指して。ダイバーシティセミナーを開催しました
- ・Kids=Artists ～全てのキッズはアーティスト～ 全4回で完成した作品がWACCA池袋にて展示されました。
- ・1年の締めくくり。100周年に向け想いをひとつに。第4回 豊島区制施行90周年企業実行委員会を開催しました
- ・若手社長たちが描く、としまの未来。豊島区制施行90周年企業実行委員会特別企画を開催。
- ・第3回 全国市区・SDGs先進度調査」で豊島区が総合9位に選ばれました
- ・90周年を盛り上げた「企業」の力。企業実行委員会クロージングイベントが開催されました
- ・「オールとしま」で走り切った九〇周年を振り返る。区制施行九〇周年実行委員会クロージングイベントを開催しました
- ・身近な「環境」から、持続可能な未来のためのアイデアを考える出前授業を開催
- ・3年ぶりに流し踊りが復活！熱気に包まれた「第四十九回東京大塚阿波おどり」

としまとSDGs

- ・SDGsで加速する持続可能なまちづくり
- ・としまの歴史を知る最後の砦「豊島区立郷土資料館」。特別展で豊島区の九〇年を振り返り、そして未来へ
- ・【子育てしやすい街ランキング1位記念：第1章】「共働き世帯が子育てしやすい街」豊島区。子どもと女性にやさしい、まちづくりの秘訣とは
- ・【子育てしやすい街ランキング1位記念：第2章】年齢による「切れ目のない子育て」。それを支える支援の「つながり」
- ・【子育てしやすい街ランキング1位記念：第3章】充実化する女性支援とまちの環境。子育て世帯を応援するまちのムードを醸成
- ・豊島区の「SDGsの担い手育成」を目指して。区内の小中学校が挑んだ取り組みの数々を振り返る。【前篇】
- ・「としまメソッド」を編み出し、誰もが主役の豊島区から明るい未来の「担い手」を育む。【後篇】
- ・子どもも、大人も、ほっこりできるひと時を。地域と一緒に子どもを育てる「としま子育てサロン」

区制90周年メモリー

- ・区民実行委員会
- ・企業実行委員会



池袋に「SDGsシンボル」を設置

豊島区におけるSDGs推進を掲げ、

2021.10.29

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) のゴール達成につながる取組みが評価され、「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定されている豊島区。2021年10月2日には、SDGsの活動推進を掲げたモニュメント「SDGsシンボル」の設置を記念して、除幕式が行われました。

高野区長はこの式の挨拶で、2014年の「消滅可能性都市」の指摘から豊島区の街が大きな発展を遂げてきたことを振り返り、「来年の区政90周年へ向けて、目指す都市像『国際アート・カルチャー都市』と誰一人取り残さない『SDGs未来都市』の実現に地域一丸となって取り組んでいきたい」と語りました。

「SDGsシンボル」が設置されたのは、JR「池袋駅」東口にあるグリーン大通り五差路2カ所（北側、南側）。高さ2.3mで三角柱のかたちをしており、各板面に「としまSDGs都市宣言」「国際アート・カルチャー都市」「セーフコミュニティ国際認証都市」について掲載されています。シンボルの足元にあるSDGsのロゴマークを模したモザイクアートは、障がいのある方への就労支援の一環として、区内の福祉作業所で一つひとつ製作されたもの。除幕式には地元の町会・商店街・関係企業の方々、モザイクアートの製作に携わった障害者就労支援施設の方々などにご出席いただき、皆で「SDGsシンボル」の誕生を祝いました。

—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



2021.10.29

豊島区では、毎年11月1日を「としま文化の日」とし、豊島区の文化や、文化によるまちづくりを次世代に継承していくための記念事業を行っています。

今年は、11月1日から8日までの期間を中心に、「SDGs×文化」をテーマに、子どもたちと一緒に豊島区の未来を描く取り組みを行います。幅広いジャンルの記念事業によって、子どもも大人も楽しみながら文化に触れ、その大切さを肌で学ぶことができます。

関連事業も含めると、およそ100の取り組みが行われます。
ぜひ、以下から気になるイベントをクリックしてみてください。

【主なイベント】

[IKEBUKURO LIVING LOOP](#)

[江戸川乱歩とミステリー](#)

[池袋ハロウィンコスプレフェス2021](#)

[アニメイトガールズフェス2021](#)

[トキワ荘のまち4コママンガ大賞](#)

[吉本芸人×IKEBUSおもしろアトカルツアー](#)

[energy～笑う筋肉～](#)

[トキワ荘のアオハル](#)

[東京グランド花月](#)

[Warai Mirai Fes ～Road to EXPO 2025 ～](#)

[よしもと×SDGs MAGAZINE 公開番組収録イベント](#)

[笑う東大、学ぶ吉本プロジェクト 教×興×響「きょう」から始めるSDGs祭](#)

※上記以外のイベントについては、以下「令和3年度『としま文化の日』特設ページ」をご参照ください

<https://www.city.toshima.lg.jp/ike-circle/culture/event/2021cultureday.html>

—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



今年も開催！
ファーマーズマーケット@IKE・SUNPARK

2022.01.12

昨年10月に再開した大好評のイベント「ファーマーズマーケット」が今年も開催されます。

としまどりの防災公園（イケ・サンパーク）園内で開催されるこのファーマーズマーケットでは、産地直送の農産物や区内の名産品、さらに豊島区と交流のある約90の交流都市等から、その地方を代表する野菜や名産品が集まります。

旬の野菜や果物を、農家さんから直接購入できる点も大きな魅力。

昨年も多くの人々が訪れ、お買い物だけでなく、農家の方との会話も楽しむ姿が見られました。



公園内には池袋のまちを周遊するIKEBUSの停留所もあり、気軽に足を運ぶことができます。

2022年は1月15日（土）・16日（日）から毎週末の開催を予定。

この機会にぜひファーマーズマーケットを訪れ、生産者の想いがこもった商品に触れ、ここでしかできない買い物体験をお楽しみください。

※週によっては開催しない場合もあります。詳細はファーマーズマーケットHP (<https://www.farmers-ikesun.jp/>) をご覧ください。

=ファーマーズマーケットとSDGs=

この取り組みは、豊島区が進める自治体SDGsモデル事業「池袋駅周辺4公園を核にしたまちづくり」の一環としてスタートしました。



マーケット開催による公園周辺も含めたまちの経済活性化や、区民・来街者の日常の暮らしに彩りを加える場づくり、電気バスIKEBUSによる来場推奨など、SDGs（経済・社会・環境）の好循環を生み出し、さまざまな面で持続可能なまちづくりに貢献しています。マーケット内には、豊島区のSDGs推進を発信するブースも設置しています。

・IKE・SUNPARK（イケ・サンパーク） <https://www.farmers-ikesun.jp/>

・IKEBUS <https://travel.willer.co.jp/ikebus/>

—— 関連するSDGs ——



「SDGs未来都市」対談企画
岩手県岩手町佐々木町長×高野区長



2022.02.03

「SDGs未来都市」として、ともにSDGsに取り組む「岩手県岩手郡岩手町」。
岩手町は本区と同じく、「文化」を軸に持続発展するまちづくりに取り組んでいる自治体でもあります。

昨年10月、岩手町の佐々木光司町長が本区を訪問され、高野区長と対談を行いました。

この模様は、岩手町SDGs特設サイト内の『佐々木町長が行く!』コーナーに掲載されていますので、ぜひご覧ください!

<https://iwatetown-sdgs.jp/>

岩手町との連携が始まったのは、昨年8月の東京・丸の内における「岩手町×丸の内SDGs Tour」。

岩手町の取組を紹介する本イベントにて、本区にもお声がけいただき、連携して互いの取組を発信しました。

これからもSDGsそして文化という共通言語を通じて、互いに手を取り合いながら、持続発展するまちづくりに挑戦していきます。



—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



2022.02.15

記者会見レポート…
池袋駅の東西をつなぐ改革
建築家・隈研吾氏が監修する
ウォーカブルなまちづくり

「駅袋」からの脱却——。

巨大ターミナル駅として知られる一方で「駅から街に人が出ない」という課題を抱える池袋駅。この長年の課題解決に向けて、一大プロジェクトが本格的にスタートします。

タッグを組むのは、豊島区庁舎建て替えをはじめとし、2011年から都市政策顧問として、豊島のまちを一緒に作りあげてきた建築家・隈研吾氏。
駅東西、それぞれ特色あるまちの文化をつなげ「多様性」「複合性」ある池袋の魅力をそのまま活かしたまちづくりを進めます。

池袋駅西口地区には、人を駅からまちへ誘う「サンクンガーデン」を設置するほか、まちの東西を快適に結ぶ地上デッキや、東口「グリーン大通り」の広場化も検討中。
これまで、SDGs未来都市・モデル事業として進めてきた「池袋駅周辺4公園を核にしたまちづくり」をさらに発展させ、東西のシンボルストリートである「グリーン大通り」「アゼリア通り・乱歩通り」を軸としたウォーカブルなまちを目指します。
駅周りのみならず、よりまち全体にエネルギーが広がる新たな未来を作り上げていくことでしょう。



4つの公園とシンボルストリートを軸に賑わいを創出



完成予定は区制100周年を迎える2032年。
この10年で大きな変化を遂げた街、豊島区・池袋。この先の10年においても、日本で最もおもしろい都市を目指した第2ステップのまちづくりが加速していきます。

—— 関連するSDGs ——





2022.03.08

豊島区では、「オールとしま」でSDGsを推進していくために、年3回「としまSDGsウィーク」を独自に設定しています。

3回目となる今回も、区内各所で様々なイベントを実施。これから始まるSDGsを軸とした区制90周年事業に向けて、SDGsを区全体にさらに根付かせていきます。

植樹や樹木の手入れ・樹木とふれあうイベント等を行い、生物多様性を理解するきっかけとする活動「としまグリーンウェイブ」が3月1日からスタートしているほか、東京アニメアワードフェスティバルや、池袋西口としま商人まつり、オンラインでの障害者美術展などさまざま。詳細は以下のリンク先よりご覧ください。

この機会にSDGsに触れ、ぜひ一緒にアクションを一步踏み出してみましょう！

【主なイベント】

3/1～ [としまグリーンウェイブ](#)

3/11-14 [東京アニメアワードフェスティバル2022](#)

3/19-21 [acosta! @池袋サンシャインシティ](#)

3/20-21 [池袋西口としま商人まつり](#)

3/23,28 [Tokyo Music Evening Yube](#)

3/25(予定)～[第15回豊島区障害者美術展「ときめき想造展」](#)

※イベント開催に関する最新情報は、各ホームページをご確認ください。

—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



2022.05.31

4月29日～5月1日に万博記念公園で開催された「Warai Mirai Fes 2022～Road to EXPO 2025～」(共催:チーム関西／吉本興業株式会社)。本イベントに、「チームとしま」として、区民と企業がブース出展し、豊島区のSDGsの取り組みを紹介しました。

「Warai Mirai Fes 2022」は、SDGsの目標達成を旗印に、ゴールデンウィークの3日間、大阪のエネルギーの源である「笑い」「食」を楽しめるほか、音楽ライブなども楽しめるイベントです。

昨年11月には、としまみどりの防災公園(イケ・サンパーク)で「『Warai Mirai Fes ～Road to EXPO 2025～』presents ワークショップ」をチーム関西の協力のもと吉本興業と連携し開催。今回は、2025年に大阪・関西万博が行われ、世界から注目が集まる大阪の地で、国際アート・カルチャー都市として、広くSDGsの取り組みを発信しました。



株式会社サンシャインシティ 小中学生のアイデアをかたちにした「ECOステーション」



リサイクル可能な段ボールでほぼ実寸大で再現した「トキワ荘」玄関



地球にやさしい池袋のシンボルとして、まちの方々に愛される「IKEBUS」



「チームとしま」ブースでは、「笑顔がMIRAIをつくる」をキーワードに、SDGsの要素をぎゅっと詰め込んだ豊島区ならではの展示を実施し、約2,000人の方々がブースを訪れました。各ブース担当者はそれぞれ次のように感想を語りました。

◎リサイクル可能な段ボールでほぼ実寸大で再現した「トキワ荘」玄関ブース担当

トキワ荘協働プロジェクト協議会

小出さん「10年前に地域の皆と『一緒にトキワ荘を復元したい』という想いで、段ボールのトキワ荘をつくりだしました」

本間さん「今回こうして大阪で展示できたということは、とても感慨深いです。大阪ではトキワ荘は知っていてもそれが豊島区にあるということは皆さんなかなかご存じなく、関西のみなさんにその点をPRできたのはよかったです」

◎「IKEBUS」ブース担当

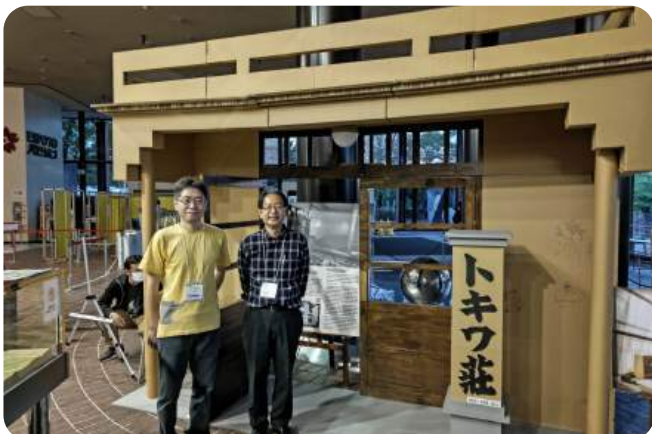
一般社団法人としまアートカルチャーまちづくり協議会 城所さん

「今回は、実際に大阪でイケバスが走れるようなかたちを考えたんです。SDGsの国際見本市である2025年の万博に向けて、SDGs未来都市豊島区として何かできることを、今回を足掛かりとして考えていくことができれば素晴らしいと思います」

◎小中学生のアイデアをかたちにした「ECOステーション」ブース担当

株式会社サンシャインシティ 倉林さん

「まちの動きに合わせて、サンシャインシティでもSDGsの取り組みをさまざまなかたちで進めているところです。今回のことをきっかけに、ますます豊島区と協力しながら一緒にまちづくりに携わっていきたいです」



トキワ荘協働プロジェクト協議会 小出さん・本間さん



一般社団法人としまアートカルチャーまちづくり協議会 城所さん

豊島区は、今後も、SDGsを通して、区民、企業・団体、行政が一体となって持続発展する「国際アート・カルチャー都市」を目指し、大阪・関西万博の2025年、さらにはSDGs目標年の2030年、区制施行100周年の2032年へと、次代に向けたまちづくりに取り組んでいきます。

—— 関連するSDGs ——





「オールとしま」でつくる
九〇周年が本格始動！ 第二回区制九〇周年
実行委員会を開催しました

2022.06.01

「区制90周年をオールとしまで盛り上げたい」という思いのもと、区民と企業が発起人として立ち上げた、90周年実行委員会。5月9日、区制施行90周年実行委員会のメンバーが集い、第2回となる区制90周年実行委員会を開催しました。

58部会（※）で構成される区民実行委員会。今回は、「ワイロード清掃ボランティア」、「としま案内人」、「高齢者クラブ連合会60周年記念事業」、「大明まつり」、「池袋モンパルナス回遊美術館」、「SDGs未来都市プロジェクト」の6部会が、それぞれの活動内容や抱負を熱く語りました。



「ワイロード清掃ボランティア」幹事 石森 さん



「としま案内人」幹事 小池 さん



「高齢者クラブ連合会60周年記念事業」幹事（代理） 竹野 さん



「大明まつり」幹事 杉本氏／荘司 さん



「池袋モンパルナス回遊美術館」幹事 小林 さん

「ワイロード清掃ボランティア」部会幹事の石森宏さんは、
「全長77メートルあるワイロードの清掃活動は重労働ではありますが、だからこそその爽快感もひとしおです。活動をスタートしてから一度たりとも休んだことがないのは、私たちの誇り。としまの大学の学生や地域の人たちとつながれるおもしろい活動です」とその活動の魅力を語りました。

また「大明まつり」について発表した荘司哲夫さんは、10月29日、30日に行われる大明まつりについて
「11月1日の『文化の日』直前に行われるイベントとして、90周年の起爆剤にしたいですね。新感覚スポーツ体験やアート体験をはじめ、多文化かつ地元グルメなど、さまざまな企画を考えています。『区民参加型』を意識して、みんなで豊島区90周年をお祝いしたいです」と意気込みます。

区制90周年に向けたオープニングイベントとなった今回。
豊島区では当サイトを中心に「90周年×SDGs」について情報発信し、としま愛あふれる「人」の想いや活動を紹介していきます。

※2022.05.09時点

—— 関連するSDGs ——





企業実行委員会を開催

第一回 豊島区制施行九〇周年

「オール企業としま」の輪

まちの賑わいを支える

2022.07.26

豊島区の発展は一緒に歩んできた区民の方々とともに、まちの賑わいを支える企業の皆様の協力のうえに成り立ってきました。90周年では、さらに「オール企業としま」の輪を強固にし、まちと経済の発展を目指しています。

6月21日には、第1回豊島区制施行90周年企業実行委員会が会場・オンラインにて開催され、今後の豊島区とともに盛り上げていく企業関係者120名近くが参加しました。

開会の辞を飾ったのは、区制施行90周年実行委員長である渡邊裕之氏。

渡邊「『SDGs 未来都市』の豊島区として、次なる100周年に向けて企業実行委員会が果たすべき役割とは何か。皆さんと一緒にフレッシュな気持ちで、より魅力ある街づくりに取り組みたいと考えています」



実行委員長 渡邊裕之さん



企業実行委員会 幹事長 合場直人さん



企業実行委員会事務局メンバー

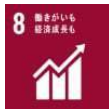
本委員会では企業実行委員会の幹事長に株式会社サンシャインシティ代表取締役社長の合場直人氏が選任されました(90周年実行委員会・副実行委員長兼務)。これからの取り組みについて、熱い想いを語ります。

合場「企業の成長のためには、まちの賑わいは不可欠。豊島区の発展をそれぞれが自分ごととして捉え、公・民、そして民・民が連携し、1つのチームとなってまちづくりに取り組んでいきましょう」

今後は、SDGsセミナーやアート・カルチャーセッションなどさまざまなセミナーや交流の場を用意し、企業同士のつながりをさらに深めていく予定です。

豊島区は今後も「オール企業としま」の輪を広げ、一人でも多くのステークホルダーが笑顔となれるまちを目指して、チーム一丸となって魅力あるまちづくりに取り組んでいきます。

—— 関連するSDGs ——





2022.08.11

新型コロナウイルス感染症の影響により、近隣で過ごす方も多かった近年の夏休み。

豊島区制施行90周年を記念して、豊島区に縁のある各企業・団体が将来を担う子どもたちに向け、「夏休みの学びの場を提供したい」、「子どもたちに『夏休みならではの』の思い出を作してほしい」との思いから、8月11日、自由学園明日館にて「としまで学ぶ夏の1日」が開催されました。

当日は豊島区とつながりのある企業・団体が9つのブースを出展。SDGsや防災、お仕事体験などをテーマに「はたらく乗り物に乗ってみよう!」「デパートのお仕事を知ろう!体験しよう!」といった企画や、バナナペーパーでのハンガー作りなど、ブース毎に工夫はさまざま。歴史的な建築物を舞台に、子どもたちは普段とは一味違う体験学習を楽しみました。



子どもたちが描く「20年後のとしまのまち」としまのまちの地図に
乗り切らず、棚にも並べて展示。



「こども記者体験」のワンシーン



サンシャインシティによる防災備蓄品で作られた迷路コーナー



なかでも「東京新聞」のブースでは、こども記者体験のほか、子どもが自由に描けるお絵描きコーナーを設置。用紙には新聞の印刷時に出る廃紙を使用し、環境保全に配慮しています。さらに人気を集めたのが「20年後のとしまのまち」を描くお絵描き企画。200組以上の親子が参加し、壁一面に子どもたちが夢見るとしまの姿が広がりました。

同ブース担当の山中裕子さんは、「まだまだ先の20年後のまちの理想の姿を、子どもたちがすらすら描けることにびっくりしました。どれもポジティブなもののばかりで、嬉しくなりますね」と笑顔で語ります。

豊島区役所もブースを出展。中身が見えるごみ収集車を設置し、ごみの積み込み体験ができるブースのほか、各ご家庭で実践している取り組みを書いてもらう「私のSDGs」コーナーを用意しました。

また、イベント会場では「ごみ収集車のボタンを押したのが楽しかった!」「迷路を抜けると、ホイッスルがもらえた!」など、楽しい1日を過ごした子どもたちの元気な声が聞こえてきました。

民間企業をはじめとする多くの団体のご協力のもと、実現した今回の企画。
これからもとしまのまち一体で、さまざまな「まなび」の機会を提供していきます。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



子どもたちとともに育つ森
「いのちの森」記念植樹2022

2022.09.06

9月6日、池袋第一小学校にて「いのちの森」記念植樹2022が行われました。「森の中の学校」をコンセプトに生まれ変わった池袋第一小学校の落成記念として実施。まちの一角に新たな森が生まれます。

地域の方々とともに豊島区を緑いっぱいにしていきたいという想いから始まった「グリーンとしま」再生プロジェクトでは、これまでに13万6千本にも及ぶ植樹活動を行ってきました。当日は実行委員長の石森 宏氏をはじめ、プロジェクトに携わる関係者の方々が列席。

植樹を行う6年生の36名に向けて、石森氏からは「緑は人の心を癒してくれます。10年後を楽しみに、未来に向けて愛する人のために、家族のために、『希望』の樹を植えていきましょう」とご挨拶がありました。

豊島区長も応援に駆けつけ「日本一の学校をつくるんだという思いを込めて池袋第一小学校の改築を行いました。ここに通う皆さんがこれから植える苗木とともに立派に成長していくことを、心から願っています」と激励を送りました。



『「いのちの森」記念植樹2022』部会 石森氏



植樹方法の方法を進和学園より説明



植樹方法の説明が行われた後、児童たちは植樹場所である「学校の森」へ移動。「グリーンとしま」再生プロジェクトの方々の丁寧なサポートのもと、1本1本、苗木を植えていきました。中には、友達と協力して植樹する児童や苗木にあだ名をつける児童の姿も。「大人になってまたここに戻ってきたとき、自分たちが植えた苗木の育った姿を見るのが楽しみです」と児童達は笑顔で語り、植樹に取り組みました。

今後も記念事業「いのちの森」記念植樹2022では、みらい館大明・南長崎スポーツ公園で植樹を実施予定。
持続可能な社会の実現に向けて、豊島区では今後も緑を、「希望」を植え続けていきます。

—— 関連するSDGs ——





SDGsの基礎を学ぶ
第一回「企業のためのSDGs推進支援セミナー」を開催しました

2022.09.08

民間企業を巻き込んだ「オール企業としま」の体制で、節目の年を盛り上げる豊島区。6月から本格始動している企業実行委員会には250社を超える企業が参画しています。
企業実行委員会における取り組みの柱の1つが「SDGsを知る」。
その一環として、企業実行委員会企画事業「企業のためのSDGs推進支援セミナー」を東京海上日動火災保険株式会社主催のもと開催しました。

全3回のシリーズ開催でSDGsへの理解を深めるこの企画は、「第一回：SDGsの基礎知識/SDGsの事例紹介」、「第二回：SDGs診断書の作成」、「第三回：SDGs診断結果の発表」の3ステップで構成されています。

8月24日・29日・30日の3日間※にかけて行われた第一回セミナーは、各日程30名以上が参加。会場は、企業実行委員会に参画する企業の施設や店舗で開催され、東京海上日動火災保険株式会社の中塚 啓二郎氏による講義形式で行われました。

提供会場

- ・エイトデイズダイニング(大塚)
- ・重要文化財 自由学園明日館(西池袋)
- ・サンシャインシティ ソラリウム(東池袋)



渡邊実行委員長「10年後、100周年を迎えるうえで、意義あるセミナーとなります」



8月24日はエイトデイズダイニングで開催



白井副幹事長「食の分野でも消費期限の見直しなど、食品ロス削減に向けた動きが進んでいます」



8月29日は自由学園明日館にてセミナーを開催



合場幹事長「企業、個人がSDGsを深く理解し、行動に移すのが豊島区のまちづくりにとっても重要」



南山副幹事長「SDGsは継続性が大事なので、自分たちに何ができるのか学んでいきたい」



8月30日はサンシャインシティ ソラリウムで開催

そもそもSDGsとはどのようなものなのか、という解説から始まった当セミナー。生活保護受給者の数やカロリー自給率、人口減少など、日本が対峙する社会課題にも触れられ、SDGsを各企業・個人が取り組んでいくことの重要性を強調する講義となりました。講義後半ではさまざまな企業の取り組み事例を紹介。経営面でもSDGsの必要性が説かれる現代において、企業単体だけでなく、まち全体で、身近なところから取り組みを進めていくことが重要となることでしよ。

次回は10月に第2回となるセミナーを開催予定。チェックシートを活用して各社のSDGsを見直す機会を設けます。最終回となる第3回では、各社の今後のアクションを明示する「SDGs行動宣言書」を作成する予定です。

SDGsの実践を通じて、としまのまちと企業が互いに高め合いながら成長していく、持続可能な未来を目指します。

※3日間同内容

—— 関連するSDGs ——





自社の取り組みを「分析」。
第二回「企業のための
SDGs推進支援セミナー」

2022.10.13

豊島区では、としまのまちづくりに参画いただく企業の皆さまと「オール企業としま」のスタンスでさまざまな取り組みを推進しています。約280社の企業で構成される「企業実行委員会」では、活動の柱の1つに「SDGsを知る」を掲げ、東京海上日動火災保険株式会社主催のもと全3回の「企業のためのSDGs推進支援セミナー」を開催しています。

基礎から段階を踏みながら、実践を交えてSDGsへの理解を深めます。9月26日・28日・29日の3日間にかけて行われた第2回セミナーは、第1回セミナーと同様に、企業実行委員会に参画する企業の施設や店舗で開催されました。

【提供会場】

- ・リビエラ東京（西池袋）
- ・RYOZANPARKLOUNGE（巣鴨）
- ・マテックス株式会社(gather)（上池袋）



28日のセミナー会場を提供いただいたマテックス株式会社：松本 浩志社長



各企業のSDGs推進度をチェックするべく、計40項目の設問から構成される「SDGs推進度チェックシート」に回答していく企業の皆さま。講師による説明を受け、真剣な表情で取り組まれていました。

チェックシートへの回答結果から導き出される診断レポートでは、各社の取り組みにおける強みと課題を洗い出し、現状の把握に活用。各社の経営理念や事業内容を踏まえて各ゴールの優先順位づけを行い、SDGsを基準にどのように社会に貢献していくことができるのか、その整理を後押しするセミナーとなりました。

第3回となるセミナーは10月下旬に開催予定。今回作成したチェックシートを基に各社のSDGsへの取り組みを見つめ直し、今後のアクションの指標となる「SDGs行動宣言書」を作成します。

企業も含めてまち全体でSDGsへの取り組みを見つめ直すこの機会は、持続可能な社会の実現において有意義なものとなることでしょう。

—— 関連するSDGs ——





2022.10.24

10月6日、としま区民センターにて、区制90周年を迎える豊島区のまちづくりに関わる企業が集う、第3回豊島区制施行90周年企業実行委員会が開催されました。

実行委員会の開催にあたり、渡邊実行委員長、高野区長、合場幹事長、久保田副幹事長からのご挨拶がありました。



渡邊実行委員長「280社近くの企業に参画いただいている現状。100周年に向けて、さらなるご協力をお願いします」



豊島区長「“活気”こそ文化。文化と経済の好循環を」



合場幹事長「Webサイト上での、企業・イベント情報の発信も強化しています」



久保田副幹事長「『まちに開かれた百貨店』として、活動の場を提供していきます」



近藤元文化庁長官



企業実行委員会の後半には、第2回に引き続き委員会メンバーとしてまちづくりに深く関わる企業・団体によるプレゼンテーションが行われました。

各企業の想いがあふれるさまざまな取り組みは、これからのとしまの発展に欠かせないもの。11月1日の「としま文化の日」に向けて、区制90周年はさらなる盛り上がりを見せています。

企業実行委員会の最後には、当日会場にも出席された豊島区芸術顧問である元文化庁長官の近藤誠一氏からコメントが寄せられました。

近藤「日本が現在必要とされている“熱気”、そして縦割りに留まらない行政と民間のつながりがとしまにはあります。文化と経済は水と油のように、かき混ぜ続けなければ混ざらないもの。高野区長のリーダーシップのもと、素晴らしい自治体のモデルケースとなることを、これからも期待しています」

— 第3回企業実行委員会プレゼン企業・団体様一覧 —

- ① 川村学園「産学連携・ブルーベリープロジェクト」
- ② 山口不動産株式会社「＃CleanUpOtsuka」
- ③ 株式会社西武ホールディングス「豊島区制90周年記念 西武線1日おでかけきっぷ」
- ④ 西武造園株式会社「環境教育プログラム」
- ⑤ 株式会社nest「IKEBUKURO LIVING LOOP」
- ⑥ 東京建物株式会社「池袋エリアプラットフォーム」
- ⑦ 株式会社エリース東京「エリース東京FCのご紹介」
- ⑧ 調べる学習コンクールinとしま実行委員会「調べる学習コンクール」
- ⑨ 池袋GLOBAL RING音楽祭実行委員会「池袋GLOBAL RING音楽祭」
- ⑩ としまものづくりメッセ実行委員会「としまMONOづくりメッセ」
- ⑪ ジャパンコンシェルジュ「映画『シェアの法則』」
- ⑫ 株式会社デサント「豊島区での取り組み」
- ⑬ 目白ロードレース実行委員会「目白ロードレース」
- ⑭ 株式会社久世「事業のご紹介」

—— 関連するSDGs ——





2022.11.01

「としま文化の日」である11月1日。豊島区制施行90周年記念式典が開催されました。

区政の発展に貢献いただいた、およそ1500名の方々とともに90周年を祝う本式典。旧庁舎跡地にある豊島区立芸術文化劇場（東京建物Brillia HALL）を会場に、第一部は小林研一郎氏が率いる「コパケンとその仲間たちオーケストラ」による華々しいコンサートで開幕しました。ベートーヴェン「交響曲第5番 運命」をはじめとした4曲が披露され、多様な音色が響きながらも一体感のある演奏は、としまのまちの姿に通ずるものがありました。

第二部の90周年記念式典では、高野区長、木下豊島区議会議長、そして豊島区制施行90周年実行委員長の渡邊氏による挨拶が行われました。

高野区長「『オールとしま』の体制でさまざまな施策を展開し、豊島区のまちづくりを行ってきました。70周年を機に進めてきた文化政策。今後も文化と経済の好循環を生み出し、豊島区のすべての人々が希望を持てるまちの実現に向けて活動を続けてまいります」

木下議長「区民の皆様によって、地域は支えられています。安心できるまち、希望に満ちたふるさと『としま』を目指し、私たち区議会議員は自負を持って課題解決に尽力していきます」

渡邊実行委員長「90周年を迎え数多くの取り組みを進めるにあたり、多くの方々から多大なご協力をいただいております。SDGs未来都市としてこれからも持続可能なまちづくりを行い、としまのまちをより良くしていきます」



人間国宝である野村萬氏、元文化庁長官の近藤誠一氏をはじめ多くの方からあたたかいお祝いの言葉もいただきました。またその後には、豊島区功労者表彰、セーフコミュニティ国際認証式、豊島区文化栄誉賞表彰が行われ、都倉俊一文化庁長官による基調講演で締めくくられました。

90周年、そして次なる100周年へ。としまのすべての人々に笑顔があふれるまちを目指して、区民、企業、行政がより一体となり、これからも歩みを進めていきます。

—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



ビジネスにおける
「ルールチェンジ」を学ぶ。
第三回「企業のための
SDGs推進支援セミナー」

2022.11.07

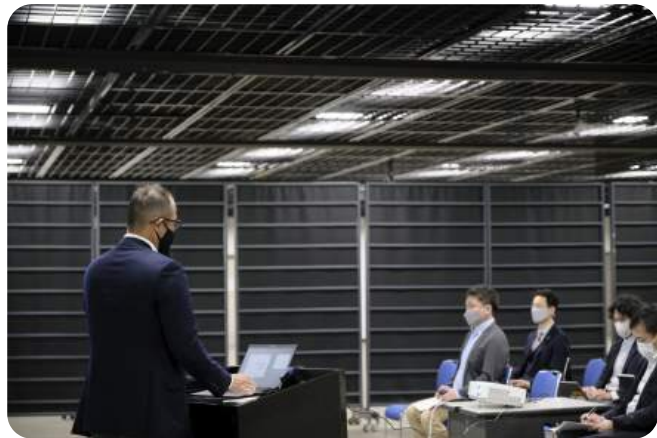
豊島区にかかわる企業向けに開催された「企業のためのSDGs推進支援セミナー」。第3回では、SDGsの未来を考え、そして具体的なビジネスに繋げることを目的として開催されました。講師からは、「社会のルールチェンジとも捉えられるSDGsを前にして、企業はいま何をすべきか。それは、SDGsを自分事として捉え、経営に練り込み、そして発信することです。行政はそのためのプラットフォームを整えています。その機会を逃がさず、自分たちの事業とSDGsを絡めることができれば、多大な相乗効果を発揮することができるでしょう」等のお話がありました。

【提供会場】

- ・株式会社デサント（目白）
- ・法明寺 すすきみずく会館（南池袋）
- ・ガモール志學亭（巣鴨）



株式会社デサント（27日）地下ホールにて



今後は、全3回シリーズとなった本セミナーを通じて、各企業が回答した「SDGs推進度チェックシート」を基に「SDGs行動宣言書」を作成していきます。SDGsへの取り組みを可視化する「SDGs行動宣言書」は、各社がさらなる持続可能な未来に貢献していくうえで、1つの指針となることでしょう。

「オール企業としま」としての「横のつながり」を生み出すことを、1つの目的に取り組んできたこれまでのセミナー。これをきっかけに生まれたつながりを育みながら、「としまのまちづくりに参画することは、1つのSDGsのかたちである」と感じていただけるよう、引き続き取り組んでまいります。

—— 関連するSDGs ——





2022.11.25

豊島区ではSDGs達成に向けて様々な取組を進めており、その一つとして、教育委員会では「SDGs達成の担い手育成事業」に取り組んでいます。「SDGs達成の担い手事業」では、区立小・中学校全30校が、保護者、地域、企業、大学など様々な方と協働で、SDGsの取組を進めています。

取組を広く発信し、オール豊島で「自分ごと化」の意識醸成を図れるように、令和4年11月9日に「SDGsフェスティバル」を開催しました。豊島区立芸術文化劇場(東京建物 Brillia HALL)で行われ、総勢100名を超える子どもたちや地域の方々がステージに立ちました。



朋有小学校「朋有太鼓」



池袋第一小学校「森の中の学校ネットワーククラブ」



千登世橋中学校+千川中学校「D級ポンプ消防隊」



パネル展の様子

当日は千登世橋中学校・千川中学校の生徒の司会のもと、区立小学校5校、中学校2校が取組を発信しました。

朋有小学校による10年以上続く伝統ある「朋有太鼓」の演奏や、高松小学校の町会の方とまちのよさを伝える「ふるさと高松」の発信、目白小学校や豊成小学校による企業との協働の取組の紹介、池袋第一小学校の演劇を交えた新校舎「森の中の学校」の活動の紹介、千登世橋中学校と千川中学校による「防災ジュニアスタッフ」の実演など、各学校の特徴を生かした取組を発信し、SDGs達成に向けて機運を高めました。

最後に学校SDGs推進アドバイザーの阿部治氏と、SDGs未来都市推進アドバイザーの一木広治氏より、メッセージが送られました。

阿部「全ての人たちをつなぐ共通言語であるというSDGsの特徴をいかに発揮していた。何が地域、世界の課題か、どう社会と関わり仕組みを変えていくのか、そういう視点を持った大人に成長してくれることを期待しています」

一木「SDGsの活動は“ローカル”の活動の積み重ねが“グローバル”になります。豊島区のお子さんから、世界のリーダーが出てほしいですね」

また、区制施行90周年シンボル事業とのコラボレーション企画として、パネル展を同時開催しました。西池袋中学校の「”服”のチカラプロジェクト」、区取組「オレンジリボン運動」、「こども未来国連会議」について紹介しました。

大人たちの力を借りながら、世界の問題を「自分ごと」化し、自ら考えてアクションを起こす豊島の子どもたち。「SDGsフェスティバル」の取組発信は、子どもも大人も手を取りあって、一人ひとりがSDGs達成の担い手として、「誰一人取り残さない」豊島区の未来をみんなで考え、行動に移していくきっかけとなりました。

—— 関連するSDGs ——



一人ひとりの個性が輝くまち。
としまを目指して。
ダイバーシティセミナーを開催しました



2022.12.06

SDGs未来都市として、誰ひとり取り残さないまちを目指し、取り組みを推進する豊島区。区制90周年を記念し、11月20日（日）と25日（金）の2回にわたってダイバーシティセミナー「ダイバーシティが世界を変える～思い込みから抜け出そう～」が開催されました。両日とも講演会とパネルディスカッションの2部制で実施し、参加者の皆さんとともに考えを深めました。

20日には弁護士の太田啓子さんをお招きし、「性別の思い込みから自由になろう!」をテーマに開催。子どもころから無意識のうちに根付いてしまう思い込み「アンコンシャスバイアス」について問題提起がありました。

講演の後、立教大学ジェンダーフォーラム所長片上平二郎さんのコーディネートのもと、株式会社良品計画の小林幸枝さん、区内大学院生のうりぼーさんを交え、実施されたパネルディスカッション。企業人、学生の立場の貴重な意見を織り交ぜながら、性別に対して思うこと・多様性を認め合う社会に必要なこと・誰もが生きやすい社会のために必要なことの3点について白熱した議論が繰り広げられました。



25日には豊島区の「ダイバーシティ&インクルージョン」について「子どもたちが10年後も住み続けたいと思えるまちづくり」をテーマに、講演とパネルディスカッションが行われました。講演では、講師の公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの長島美紀さんから、「ダイバーシティ」ととどまらず、その個人の力を最大限に活かした社会や組織が運営される「インクルージョン」の重要性が語られました。

講演後のパネルディスカッションでは、長島さんに加え、区内在住でNPO法人こそだてビレッジのExecutive Directorであるレイチェル・ファーガソンさん、株式会社そごう・西武 執行役員人事部長の手塚徹さんをパネラーにお招きし、区内在住のフリーアナウンサー茅原すみさんの司会のもと、複数の観点から意見交換が行われました。



両日とも多くの方々にご参加いただき、皆でとしまの未来を考えるきっかけとなりました。一人ひとりの個性が輝き、高め合うまちを目指して、としまはこれからも多様性を実現するための取り組みを続けていきます。

関連するSDGs





WACCA池袋にて展示されました。

全4回で完成した作品が

「全てのキッズはアーティスト」

Kids=Artists

2022.12.21



STUDIO201による「Kids=Artists ~全てのキッズはアーティスト~」 全4回で完成した作品がWACCA池袋にて展示されました。

南池袋公園やグリーン大通りを中心に展開されるIkebukuro Living Loopで豊島区制90周年を記念して、実施されていた、STUDIO201による「Kids=Artists ~全てのキッズはアーティスト~」の全4回で子どもとプロのアーティストによって完成した16作品が池袋駅東口にあるWACCA池袋にて展示されました。

Kids=Artistsとは？

「子ども」×「アート」×「まち」をキーワードに、子どもが本来持つ感性や可能性を引き伸ばす子ども向けの教育プログラム。個性豊かな4名のアーティストとそれぞれに用意した大きなキャンバス。最初は子どもたちに自由にキャンバスの上に描いてもらい、アーティストがライブペイントパフォーマンスで作品を完成させます。



全16作品が一堂に会するのは、これが初めてであり、本企画を主宰した宮副信也さんは、「たくさんのお子さんが参加してくれて完成した作品が、さまざまな場所で人の目に触れることができていることが何よりもうれしい。これからも豊島区が賑わいのある、笑顔いっぱいのまちになっていくことに微力ながら尽力していきたい。」と熱い想いを語っていただきました。

今後作品は、WACCA池袋だけでなく、池袋PARCOなどにも展示されていきます。

- ・WACCA池袋 ～2022年12月19日(月)まで
- ・池袋PARCO ～2022年12月26日(月)まで ※営業時間は各商業施設のHPをご確認ください。

このあと、展示販売会も予定されているようです。
スケジュールや会場については、決まり次第こちらのHPにてお知らせをしていきますのでお楽しみに！

◆としまSDGsアクション 宮副 信也さんインタビュー
「子どもたちの自由な発想をアートの力で発信したい」

[https://www.toshima-sdgs.jp/about/index.php?
c=about_view&pk=1664275180](https://www.toshima-sdgs.jp/about/index.php?c=about_view&pk=1664275180)

◆Kids=Artists ~全てのキッズはアーティスト~HP

<https://kids-artist.jp/>



— 関連するSDGs —





1年の締めくくり。
100周年に向け想いをひとつに。
第4回 豊島区制施行90周年
企業実行委員会を開催しました

2022.12.26

12月13日、サンシャインシティ文化会館の特別ホールにて、第4回豊島区制施行90周年企業実行委員会が開催されました。今回の委員会がたくさんの記念式典・イベントがあった2022年の締めくくりとなりました。



渡邊実行委員長「企業からの声は豊島区にとって非常に重要」



高野区長「稼げるまちとして、魅力あるまちづくりを目指しましょう」



合場幹事長「豊島区ならではの強みは気持ちをひとつにできるところ」



立教大学 郭ゼミナールからの発表

としまのまちに携わる13社の企業・団体の発表では、「2分間の発表時間を厳守することがSDGsにつながるはず」という山口不動産の提案に沿い、スムーズな進行となりました。さらに今回は立教大学の郭ゼミナールから学生様にご登壇いただいたほか、豊島区のオーディションで誕生した新たな声優ガールズユニット「IBERIs&」によるプレゼンテーションなど、フレッシュな発表が展開されました。90周年から次の100周年に向けた、新たな風が吹き始めています。

渡邊実行委員長からの講評ののち、豊島区制90周年事業を振り返るショートムービーが上映され、2022年の活動を振り返りました。

渡邊「各企業それぞれの取り組みが、企業実行委員会を機に結集し、としまを盛り上げるひとつの力となっていくと感じています。90周年、そして100周年を目指して、これからも盛り上げていきましょう」

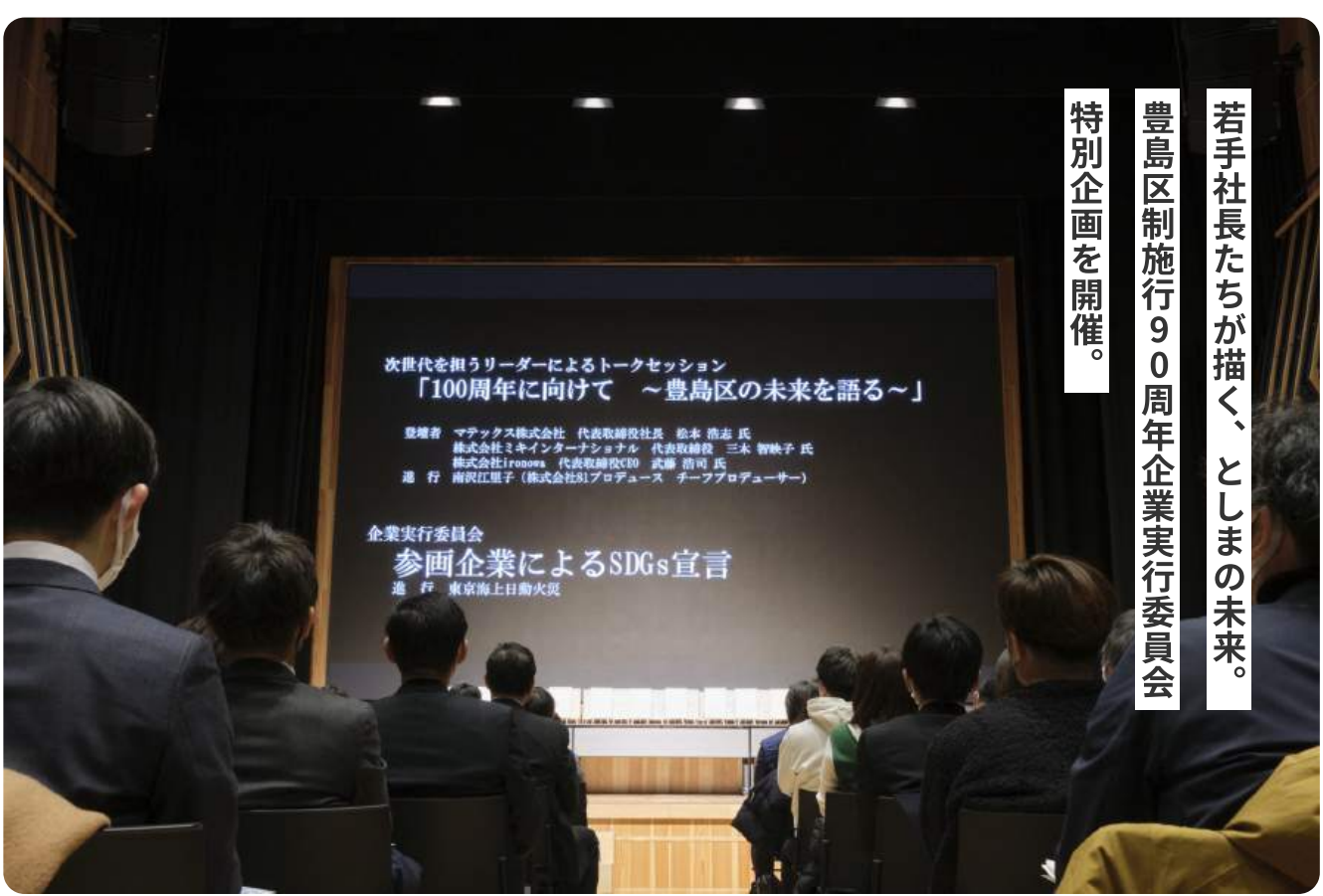
区制90周年を締めくくる年度末の企業実行委員会は、2023年3月に開催される予定です。これからも豊島区は「オール企業としま」を軸に企業間の交流を促進し、新たなビジネスチャンスを生み出す「魅力あるまちづくり」を目指していきます。

— 第4回企業実行委員会プレゼン企業・団体様一覧 —

- ①山口不動産「僕の想うSDGs～としま区制100周年を輝く新時代にするために～」
- ②サンシャインシティプリンスホテル「オリジナル バンブータンブラー企画」
- ③立教大学 郭ゼミナール「エシカルの認知度拡大に向けて」
- ④アインズ「脱プラ紙ファイル他取り組み」
- ⑤パソナ「外国企業とのビジネスマッチング(東京都パートナーシップ支援事業)」
- ⑥Office ENDLESS「サッカー漫画『ブルーロック』舞台化プロジェクト」
- ⑦81プロデュース「豊島区で誕生!声優ガールズユニット『IBERIs&』」
- ⑧映画「ブルーイマジン」制作委員会「オリジナル長編映画『ブルーイマジン』」
- ⑨Meta Anchor「ひきこもりアート・コンテンツフェスタ」
- ⑩養老乃瀧「としま情熱基金」
- ⑪エクストリーム「池袋デジタル寺子屋」
- ⑫ハクビ京都きもの学院「民間外交として文化プログラムを担う」
- ⑬マテックス「サードプレイス『HIRAKU Ikebukuro』」

— 関連するSDGs —





特別企画を開催。

豊島区制施行90周年企業実行委員会

若手社長たちが描く、としまの未来。

2023.01.25

1月25日、としま区民センターで開催された、企業実行委員会特別企画。としまのまちづくりに関わる企業から150名もの参加者が集い、盛況の中で各種企画が行われました。

前半は、「100周年まで待ってられない! 私たちが描く未来」というテーマで次代を担うリーダーによるトークセッションを実施。マテックス株式会社の代表取締役社長・松本浩志氏が「パーパス経営」、株式会社ミキインターナショナルの代表取締役・三木智映子氏が「食と景観」、株式会社ironowaの代表取締役CEO・武藤浩司氏が「としまの色」について語り、地域の未来を創る取り組みを構想しました。そして、「としまには『変わる力』がある」と触れ、「これから進むべき方向性を見出していきたい」と抱負を語りました。なお、それぞれの提案内容は、絵や図解で表現するグラフィックレコーディングによって記録されました。



マテックス株式会社松本浩志氏「『HIRAKU IKEVBUKURO』プロジェクトをはじめ、地域に根付いた活動を展開」



株式会社ミキインターナショナル：三木智映子氏「海外の街などを参考に、『わざわざ行きたくなる街』を目指したい」



株式会社ironowa：武藤浩司氏「としまの色は『艶（豊島＋色）』。より艶ある街をつくっていききたい」



後半には、豊島区と連携して「企業のためのSDGs推進支援セミナー」を主催した東京海上日動火災保険株式会社が、これまでのセミナーの総括を報告。セミナーに参加してSDGs行動宣言書を作成した全47社のうち、株式会社久世、株式会社デサント、マテックス株式会社、株式会社ironowaの4社が代表して自社の理念や活動、今後の展望について宣言しました。

全3回にわたって実施されたセミナーを振り返り、渡邊実行委員長は「SDGsセミナーを通して生まれた企業のつながりに大きな価値がある」と講評。齊藤副区長は、「としまを変えたいと願う人々が集えば、きっと理想のまちが実現できる」と大きな期待を込め、会を締めくくりました。90周年に形成された連携の輪は、未来のとしまを切り開く鍵となることでしょう。

—SDGs行動宣言企業・団体様一覧—

- ① 株式会社久世
- ② 株式会社デサント
- ③ マテックス株式会社
- ④ 株式会社ironowa

— 関連するSDGs —





「第3回 全国市区・SDGs先進度調査」で
豊島区が総合9位に選ばれました

2023.01.30

このたび日本経済新聞の「第3回 全国市区SDGs先進度調査」において、豊島区は全国で総合9位の評価をいただきました。今回の結果は、前回調査の18位から大幅にランクを上げての大躍進です。

本調査は、全国815市区を対象に、「経済」「社会」「環境」の3分野でのSDGs達成に向けた取り組み状況を審査したものです。

分野別では、「ダイバーシティ推進」「QOL（クオリティオブライフ）の向上」などを反映する社会分野で、9位と高評価。国際アートカルチャー都市構想、地方との連携、待機児童対策、女性と子どもに優しいまちづくりなど、多方面にわたるきめ細やかな施策が、高く評価されました。

また、豊島区は2020年に国からSDGs未来都市に選定され、「としまSDGs都市宣言」を制定。2022年には脱炭素を目指した「2050としまゼロカーボン戦略」も策定し、地域の人とともにSDGsを積極的に推進しています。イケ・サンパークで毎週末開催しているファーマーズマーケットも、職員間の意識を高めています。

環境分野では、街路灯等のLED化により、2021年度の使用電力量が2015年度の半分に抑えられた省エネ対策が、高い評価につながりました。

SDGsが目指す「誰一人取り残さない」社会は、豊島区が掲げる「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」、そのものです。

豊島区制100周年に向けて、区民の皆様と企業の皆様と一緒に取り組むさまざまなアクションとともに豊島区は、さらなるSDGs先進都市へと躍進していきます。

【第3回 全国市区・SDGs先進度調 総合ランキング】1～10位 ※ ()は前回順位

- 1 (1) さいたま市 (埼玉県)
- 2 (5) 豊田市 (愛知県)
- 3 (6) 福岡市 (福岡県)
- 4 (2) 京都市 (京都府)
- 5 (8) 相模原市 (神奈川県)
- 5 (4) 北九州市 (福岡県)
- 7 (49) 大阪市 (大阪府)
- 8 (9) 板橋区 (東京都)

9 (18) 豊島区 (東京都)

- 10 (11) 神戸市 (兵庫県)

SDGs先進度ランキング

	2021年	2023年
総合	18位	9位
経済	29位	9位
社会	1位	9位
環境	175位	27位

関連するSDGs



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

90周年を盛り上げた「企業」の力。
企業実行委員会
クロージングイベントが開催されました



2023.03.24

3月24日、企業実行委員会クロージングイベントがとしま区民センターで開催されました。前半では「これからの豊島区が持つ強み」をテーマに特別鼎談を実施。株式会社サンシャインシティの代表取締役社長の合場氏、株式会社マクアケ代表取締役社長の中山氏、一般社団法人アート東京代表理事の來住氏の三人が、豊島区の魅力やこれからの未来について語り合いました。

來住「昨年区長とお話したとき、どんなまちが『素晴らしいまち』なのかと聞くと、『子どもが笑顔になるまちだ』と仰っていました。これからの未来を担う子どもたちが安心して、そして笑顔になるまちづくりが大切だと感じます」

合場「区長は稼げるまちにしよう、という方針を語ってくれていました。そのためには、いかにファンを増やすか。アート・カルチャーを大切に、さらにわくわくできるまちにみんなでしていきたいですね」

中山「豊島区は非常にバラエティーに富んだまちというプラットフォーム。おもしろいコンテンツがある『魅力あるまち』のトップランナーになる可能性を強く実感しています」

後半には10のオール企業としまによる提案と、区制施行90周年実行委員会幹事メンバーからご挨拶がありました。今回で企業実行委員会はクロージングとなりますが、渡邊実行委員長からは「90周年で生まれた繋がりを生かし、かたちを変えてこれからもアクションを続け、よりよいまちづくりを行っていきましょう」と企業同士の連携について、今後の方針が示されました。



この90周年は、区制100周年に向けたスタートライン。
大きな節目に向けて思いを新たに、豊島区は今後も魅力的なまちを、地域の皆さまと共に創りあげていきます。

— 第5回企業実行委員会プレゼン企業・団体様一覧 —

- ①81プロデュース「国際声優コンテスト 声優魂」
- ②サンシャインエンタプライズ「サンシャイン60展望台 てんぼうパーク オープン」
- ③STUDIO201「Kids=Artisits Exhibition —A Look Back on 2022—」
- ④Xcountry「スクールオブアーバンスポーツ」
- ⑤東京新聞「子育てサイト 東京すくすく」
- ⑥エリース東京「豊島区の皆さまに愛されるクラブへ」
- ⑦日テレアックスオン「としま映像時計IKEBUclock サポーター募集」
- ⑧円谷プロダクション「ウルトラヒーローズEXPO サマーフェスティバル」
- ⑨テラコヤ「カフェ塾テラコヤ」
- ⑩むすび「Yume Labo アートで障がい者の自立支援を」

— 関連するSDGs —





2023.03.29

3月29日、1年間を通じて豊島区の90周年をともに作りあげてきた区民実行委員会・企業実行委員会のメンバーが一同に会し、区制施行90周年実行委員会クロージングイベントが開催されました。

第1部では、豊島区都市政策顧問を務める建築家の隈研吾氏より「池袋のウォーカブルなまちづくり」をテーマに基調講演が行われました。池袋というまちの可能性や、海外のさまざまなアートカルチャーなまち・建物に関するポイントが語られ、としまのまちづくりにおいて多くの示唆に富んだ講演となりました。

隈「さまざまな環境面での工夫を凝らした区庁舎だけでなく、今後はウォーカブルなまちづくりを目指し、東西をつなぐダンベル構造を生かした再開発を実施していきます。21世紀には、複合機能を有した雑多性あるまちは、より良い意味で捉えられるようになって考えています」



続く第2部の冒頭では90周年事業の記念ムービーを上映。「みんなが主役」をキーワードに、濃密な1年間を振り返りました。その後、渡邊裕之実行委員長、豊島区長職務代理者・齊藤雅人副区長、豊島区議会の木下広議長より、クロージングにあたってのご挨拶がありました。

渡邊「貴重な機会を楽しまねばという想いで、本当にたくさんのイベントに足を運んできました。ここまで企業と区民とが一体となって周年事業を盛り上げることができたのは、誇るべきことです。この経験をレガシーとして継承し、100周年につないでいきましょう」

齊藤「この1年間で、400を超える事業にのべ約400万人の方々に参加してくれました。『一人でみる夢は夢でしかない、皆でみる夢は現実になる』という高野区長の言葉通りとなり、とにかく皆様へ心から“感謝”の一言に尽きます」

木下「ここまで豊島区の街づくりが加速してきたのは、皆様一人ひとりのおかげです。高野区長がのこされた足跡をしっかりと受け継いで、さらに明るい未来への道を切り拓いていきましょう」



渡邊実行委員長



齊藤副区長



木下区議会議長



イベントの最後には、子ども達が10年後の豊島区を語るムービーが流れ「緑がたくさんある街」「元気な子がいっぱい、笑顔あふれる街」「いろんな国の人が暮らせる街」など前向きな声が寄せられました。その後、壇上では劇団ムジカフォンテの子ども達が「SDGsのうた(17目標のおぼえうた)」を合唱し、会場は未来への希望に溢れるクロージングイベントとなりました。

90周年実行委員会としての活動は一度幕を下ろしますが、オールとしまの体制はこの先も続きます。区民と企業のつながりと団結力を強みに、豊島区は早くも次の100周年を見据えて歩み始めます。

—— 関連するSDGs ——





出前授業を開催

持続可能な未来のためのアイデアを考える

身近な「環境」から、

2023.07.18

豊島区SDGs未来都市推進課では、昨年に引き続き実施される「SDGsアイデアコンテスト/国連を支える世界こども未来会議 in TOSHIMA」に向けて、「豊島区出前授業」を行っています。子どもたちのチャレンジをサポートするために、西武造園株式会社のご協力のもと巣鴨小学校で出前授業を行いました。

今回のテーマは「環境」。環境教育プログラム「富良野自然塾東京校」でインストラクターを務める西武造園株式会社の前杉昌枝さんを講師にお招きし、普段よく耳にする「環境」とは何をなのか、その言葉の意味から子どもたちと一緒に考えました。



特に「地球の環境は『空気・水・土・植物・微生物』がもとになって、『ぐるぐる』と循環することでできている」という話に子どもたちは興味津々。

授業後には、もっと話を聞きたいと前杉さんに質問しに行く子どもたちの姿も。

「お話を聞いて、土や植物や微生物までもが環境に関わっているんだと気づきました」
「自分たちが地球の環境を守っていかないといけないと感じました」

前杉「『答え』を押し付けられるのではなく、こどもたちが自分で『気づき』、当事者意識を持つことが大事だと考えています。家や学校など、まずは身の回りで環境のために何ができるのか、考えを巡らせてみてほしいです」

そんな子どもたちの様子を見守る越阪部先生はこう語ります。

越阪部先生「企業の方などにお話しいただく出前講座は普段の授業とは違ったかたちで、子どもたちも楽しみながら学んでいました。これからも環境をはじめ、福祉や人権問題など他の分野についての出前講座もお願いしたいと思っています」



この夏は巣鴨小学校だけでなく、南池袋小学校など希望があった複数の学校で、さまざまな企業・団体の方と協力し、出前授業を開催しました。これからは豊島区では、子どもたちに考えるきっかけを提供できるような取り組みを進めていきます。

そして、今年度の「SDGsアイデアコンテスト」の締め切りは9/25(月)。子どもたちの自由なアイデアをお待ちしています。

令和5年度 SDGsアイデアコンテストに応募して
「国連を支える世界こども未来会議 in TOSHIMA」に参加
しよう

— 関連するSDGs —





2023.08.26

活力溢れるとしまの夏の風物詩。第49回になる「東京大塚阿波おどり」が盛大に開催されました。

1972年に地元の商店街の主催で始められたこのお祭りは、コロナ禍前は来場者数が約10万人にもおよび、豊島区の夏を盛り上げてきました。今年は南大塚通りを歩きながら披露する「流し踊り」を3年ぶりに実施。大塚駅南口前広場（TRAMパル大塚）での「組踊り」にも、地元の方々をはじめ多くの観客が集いました。



区役所職員の有志で集まった「区役所連」には高際みゆき区長も参加。数十人もの踊り手を率い、先陣を切って踊りを披露しました。「としまは～踊りよ～」の掛け声とともに、まつりを盛り上げました。

高際区長「あたたかい手拍子に囲まれて、楽しく踊ることができました。これからも豊島を盛り上げていきたいです」



流し踊りが行われる南大塚通りの両サイドでは、多種多様な屋台が出店し、通りにあるお店もお祭り仕様のフード・ドリンクなどを販売。街行く人々はみな、笑顔を浮かべながら踊り手たちに、拍子を送ります。

今回は、地元企業の連も含め総勢11にわたる連が出演し、総勢355名の踊り手が参加。踊り手を引き立てる「鳴り物」の音色が響き渡る中、踊りとカラフルな衣装でまちが彩られました。海外の方も多く訪れており、日本の伝統的な踊りに興味津々の様子でした。

祭りの最後には「乱舞」が行われ、アツい夏の1日が幕を下ろしました。

3年ぶりの大にぎわいとなった、第49回東京大塚阿波おどり。
来年は記念すべき第50回。乞うご期待です。



—— 関連するSDGs ——



なぜ、としまが SDGsに取り組むのか？

「誰もが主役になれる」まちを目指す国際アート・カルチャー都市と、

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsは、まさに同じ方向性を目指すものです。

豊島区は「SDGs未来都市」として、SDGsへの取組みを通して「国際アート・カルチャー都市」を実現していきます。

年齢・性別・国籍等を問わず、誰をも受け入れ、誰からも受け入れられ、そして、誰もが笑顔になれる魅力あるまちづくりを目指します。

SDGs未来都市 豊島区



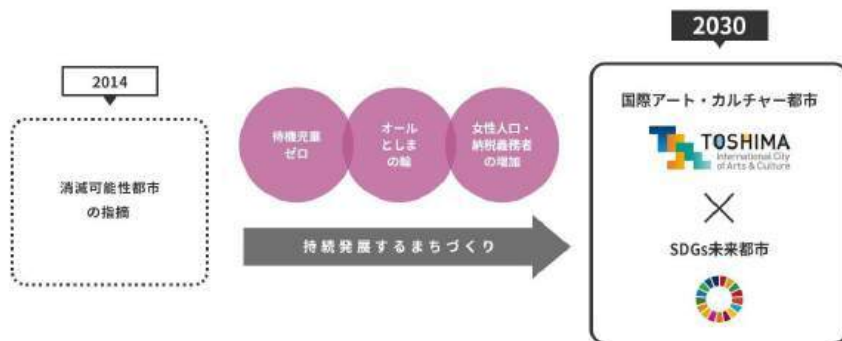
豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



**「消滅可能性都市」の指摘を乗り越え、誰もが主役になれるまちを目指す
「国際アート・カルチャー都市構想」の実現へ**

財政破綻寸前の状況だった90年代から、行財政改革や文化を基盤としたまちづくりを進め、ようやく財政黒字へと転じた豊島区。しかし、2014年には「消滅可能性都市」の指摘を受け、再びピンチに陥りました。

このピンチをチャンスに変えるべく、2015年、新たに打ち出したのが「国際アート・カルチャー都市構想」です。誰もが主役になれる劇場都市を目指し、地域一丸となって、文化を軸に据えたさまざまな取組みを推進していきました。そして今、危機を乗り越え、一人ひとりがより一層輝けるまちづくりが加速しています。



**90周年、さらに100周年のとしまの未来を描くために、
SDGsが大きな推進力となる**

こうした取組みの数々が評価され、豊島区は2020(令和2)年に「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に東京都で初めて、ダブル選定されました。今後は区内で活動を広げるだけでなく、先進的な活動を行う自治体として、SDGsのつながりを全国へと広げていくことが求められます。

また、2022(令和4)年に迎える区政90周年、そして100周年に向けて、持続可能なまちづくりはますます重要となります。「国際アート・カルチャー都市」を実現し、より良い未来をつくるために、豊島区はSDGsの推進に力を注いでいきます。

SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



2022.09.15

#文化商工部文化デザイン課 #郷土資料館管理運営グループ #豊島区立郷土資料館 #学芸員

[OVERTURE]

としま産業振興プラザ(IKE・Biz)7階にある博物館をみなさんご存じでしょうか。区民の方々から寄贈された資料の整理や研究のほか、さまざまな展示会を開催している「豊島区立郷土資料館」。豊島区の歴史・文化を知るうえで欠かせないこの施設でのお仕事について、学芸員の秋山伸一さんにお話を伺いました。



Profile

豊島区立郷土資料館

The Museum of Toshima City

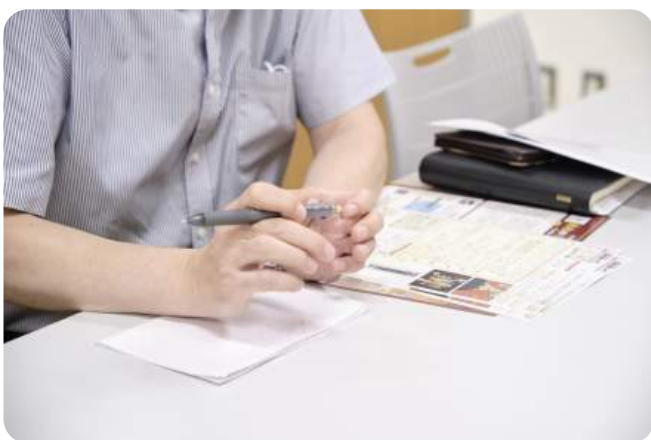
1984年開館。豊島区に関する貴重な郷土資料を収集・整理・保存し、調査・研究を行い、その成果を展示会の実施や、講座の開催などで区民へ還元している。2017年にリニューアル。豊島区の歴史・文化に関する理解を深め、かつ区民の憩いの場となることを目指している。

大きく変化したとしまのまちで、昔自分の先祖が住んでいた場所はどこだろうか――。

手がかりがいくつかあれば、そんな素朴な疑問にもお答えできます。としまの歴史を知る「最後の砦」となるのが、「豊島区立郷土資料館」です。ここでは、区民の皆さんからご提供いただいたさまざまな資料を用いて、まちの歴史を明らかにするほか、郷土に関するさまざまな問い合わせに対応しています。

郷土、美術、文学・マンガの3分野の展示を、年に1回企画展として開催。さまざまな角度からとしまのまちの歴史を紹介しています。

秋山「今年は豊島区制90周年ということもあり、区制90周年を記念した展示会を2回開催します。5月から8月にかけて開催したのは『昭和の暮らしと遊び～昔の遊びを体験してみよう～』という企画展。日常の暮らしと遊びに光をあて、子どもも楽しめる企画を考えました」



会場にはけん玉やコマ・万華鏡などの体験コーナーをはじめ、寄贈された白黒テレビや電気冷蔵庫、黒電話などの生活道具も用いて昭和の暮らしの再現展示を配置。小学生の子どもたちやその親世代など、幅広い年齢層の方々が訪れ、アナログ時代の日常生活に興味深々だったようです。

秋山「2世代、3世代のご家族が一緒に楽しめるよう工夫しました。『懐かしさ』と『新しさ』、それぞれの楽しみ方で世代をつなぐ展示になったようです」

脈々と続く、としまのまちの歴史を将来に伝えていく当施設。文化を継承していくその姿には、まちや文化の「持続可能性」を考えるヒントがあります。

秋山「どのように資料を展示するのが来館者にとって見学しやすいのか、悩みどころです。資料は世界に1点しかない貴重なもの。緊張感をもち、また寄贈者に敬意を払いながら取り扱っています」

10月1日からは、区政90周年特別展『豊島大博覧会～過去から学び、今日を生き、未来に希望～』を開催予定。豊島区の90年間の歩みを振り返るとともに、次の100年に向けた10年を見据えます。

特別展にあわせて制作された新たなジオラマを複数展示するなど、大博覧会にふさわしい展示になるとのことです。ぜひ一度足を運び、豊島区の歴史と未来に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

―― 関連するSDGs ――



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



【子育てしやすい街ランキング1位記念：第1章】
「共働き世帯が子育てしやすい街」豊島区。
子どもと女性にやさしい、まちづくりの秘訣とは

2023.03.08

#子育て支援 #共働き #子どもと女性にやさしいまちづくり

〔 OVERTURE 〕

少子化が加速する昨今、全国の自治体ではさまざまな子育て支援策を打ち出しています。日本経済新聞社と日経BPの情報サイト「日経xwoman」の調査にて、この度豊島区は「共働き子育てしやすい街」ランキングにて全国1位の評価を獲得しました(※)。まち全体で子どもを育てる、豊島区の取り組みをご紹介します。

※首都圏などの主要市区や政令指定都市、県庁所在地市、人口20万人以上の180市区を対象に2022年9～10月に実施し、165市区が回答。

豊島区では、2014年に「消滅可能性都市」の指摘を受けて以来、より一層力を入れて「子どもと女性にやさしいまちづくり」に取り組んできました。現在では、保育園の待機児童ゼロを実現。さらに妊娠期のフォローから女性の活躍支援やまちの環境整備まで、幅広く取り組んでいます。

高際副区長「たとえばかかりつけ医のように、子育てを保育士さんに相談できる『マイほいくえん』事業は高く評価いただきました。それだけでなく、保健所から男女平等推進センター、教育委員会など複数の部署が横断的に協力し取り組んできた点が豊島区の子育て支援の強みです」

子ども家庭部 副島部長「区民の皆さんからも『こんな事業が必要だと思う』と意見もいただきながら一緒に考え、組み立ててきました。今回は、これまでの公民連携の豊島区の取り組みをご評価いただけたということで、みんなが自信を持つことができ、本当にうれしいことです。みんなで事業を育てる、という文化が豊島区にはあると感じています」



高際副区長



子ども家庭部 副島部長



今回のランキングは、「共働き」家庭が子育てしやすい街として評価されたことも、大きなポイントの1つです。共働き世帯は、現在の日本で増えつつある家族の形態ですが、仕事と子育てを両立する負担は大きく、当事者にとっては心配事が尽きません。そんな不安に寄り添う、伴走型支援のさらなる拡充を目指しています。

高際副区長「子育て世帯がいい意味で楽に暮らせるまちづくりを進めていく。そのために、今後はもっと多くの子どもたちの意見も聞いていき、そして、取り組みに携わるみんなが『子育てサポートが楽しい』と感じられる文化にしていきたいですね」

子どもの成長に合わせた途切れない支援。その実現のためには、組織の枠を超えた連携だけでなく、区役所内の環境整備も欠かせません。豊島区では、今後さらに子育てしやすい街を実現していくべく、関係する各部署それぞれの取り組みの現状と展望について、意見を交わす座談会を実施しました。第2章・3章では、座談会の様子を通じて各担当者の「想い」に触れてみてください。

〔 NEWS 〕

日経xwomanと日本経済新聞社が「自治体の子育て支援制度に関する調査」

2022年版「共働き子育てしやすい街ランキング」で総合編1位に東京都豊島区が選ばれました。ランキングの詳細はこちらをご覧ください。

—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



2023.03.08

#子育て支援 #共働き #妊娠期から中学生時代

【 OVERTURE 】

豊島区では年齢による「切れ目のない子育て支援」を掲げ、さまざまな事業を展開しています。保護者や保育者、そして子どもたちにとってより良いまちづくりを目指して日々奮闘する、職員たち。なかでも妊娠期から中学生時代を主にサポートする、「子ども家庭部」「池袋保健所・長崎健康相談所」「教育部」の取り組みに焦点を当てて、ご紹介します。

子ども家庭部 保育課 長澤課長 「保育士の皆さんと一緒により良い保育について日々考え、保育施設を巡回訪問し、保護者の方々のご意見を伺いながらとさまざまな施策を展開してきました。その積み重ねが『共働きで子育てしやすい街ランキング』1位という結果につながったのではないのでしょうか。待機児童をゼロにするために保育施設を増やす『量』的な支援から、保育の『質』のさらなる向上へと転換するタイミングを迎えたと感じています」

子ども家庭部 保育課 鈴木課長 「評価が高かった取り組みの1つに『マイほいくえん』事業※があります。令和元年10月から始まった本事業ですが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、保育園が臨時休園していた時には、事業の継続が危ぶまれました。しかし、現場の保育園の職員がマイほいくえん登録者の方に電話をかけて、話を聞いたり、保育園と各家庭のつながりが切れないよう、働きかけてくださいました。区立保育園が地域の子育て支援施設の中核であるという意識のもと、自分たちが在園児やその保護者だけではなく、在宅で子育てするご家庭のみなさんもしっかり支えるんだという職員の熱意には頭が下がります」

※「マイほいくえん」事業とは

妊娠中の方やそのパートナー、在宅で子育て中の家庭を対象にすべての区立保育園を身近な子育て拠点「マイほいくえん」と位置づけ、様々な子育て支援事業（育児相談、園庭開放、離乳食講習会、保健相談など）を行っています（令和5年度は私立保育園等にも拡大予定）。



子ども家庭部 保育課 長澤課長



子ども家庭部 保育課 鈴木課長

高際副区長 「『マイほいくえん』事業や一時預かり事業がここまで機能ようになったのは、十分な数の保育施設が確保できるようになったからこそ。この基盤を強みにして、在宅勤務をしながら子育てを行う保護者の方もサポートの対象としていきます。そのためにも、保育現場のサポートがさらに重要になります。巡回指導にも力を入れ、現場で支えてくださっている保育士の皆さんに寄り添いながら、体制を整えていきます」

子ども家庭部 子ども家庭支援センター 山本所長 「出産前から子育て家庭を支援できているのは、保健所と子ども家庭支援センターとの連携が強いからだと思います。コロナ禍で相談に来れない方には、訪問または電話でフォローするなどアウトリーチサービスを強化してきました。困っている方をそのままにしておかない。そのためにも、関係機関との連携は欠かせません」

長崎健康相談所 大須賀所長 「行政は数居が高いと感じる方も多いのですが、実際に会ってお話をするとなんか話を相談していただけます。ぜひ積極的に活用していただきたいですね。長崎健康相談所では伴走型相談支援を特徴としており、地域の担当保健師が妊娠から出産まで一貫した支援を行っています。コロナ禍でも変わらない支援を続けていくため、対面とオンラインの長所を上手く組み合わせた事業を展開していきたいです。私たちが得た情報を子ども家庭支援センターや児童相談所等の他部署と共有し、連携する。そして一人ひとりを理解していくことが大切だと思います」



子ども家庭支援センター 山本所長



長崎健康相談所 大須賀所長

高際副区長 「豊島区の良さである連携をさらに強くしていきたいです。また行政機関だけでなく、保育園や小学校などの教育機関とつながることができれば、切れ目のない子育て支援が実現すると思います」

子ども家庭部 副島部長 「そうですね。妊娠から出産、幼児期の支援が必要な場合には小学校や中学校、またそれ以上の若者世代にまで、切れ目ない支援が届くようにするためにはどうしたらいいのか、という視点でこれまでも様々な取り組みを連携して進めてきました。ですが、まだまだこれから、引き続き大きな課題です。」

子ども家庭部 子ども若者課 小澤課長 「切れ目のない若者の支援の1つとして、『アシスとしま※』の中で教育委員会と協力して『アシスとおはなし』を展開しています。タブレットツールで子どもたちから相談を受けやすい体制をつくる工夫を実施中です。青少年育成委員会の方や保護司、NPO団体、こども食堂の関係者など、地域の方が積極的に協力してくださるので心強いです。今後も皆さんと共に地域の子ども、若者を支えていきたいと思います」

※『アシスとしま』とは

子どもとおおむね39歳までの若者を対象とした豊島区子ども若者総合相談窓口。必要に応じて専門機関と連携を図り、一人ひとりに合わせた支援プログラムを実施しています。



子ども家庭部 子ども若者課 小澤課長

教育部 放課後対策課 小野課長 「放課後対策などの小学校のサポートについては、23区では、外部委託する動きが加速しているそうです。豊島区のように区が担当しているのは珍しい。また、教育委員会の中に放課後対策を担う部署が入っていることも滅多にありません。この体制により、学校生活から放課後まで一貫した支援を実施することができています。また、『子どもスキップ※』も豊島区の特徴的な取り組みと言えるでしょう。当制度では、教員免許などの有資格者がスクール・スキップサポーターとして学校から放課後まで一貫して同じ子の支援を行います。放課後の様子を学校の先生方にフィードバックするなど、一人ひとりに寄り添った子育て支援の実現に寄与していると感じています。また、長期休みの時には宅配弁当を導入しているため、お弁当作りの大変さ軽減にもつながっているとの声も聞かれました」

高際副区長 「さらに上の年代を対象とした『中高生センタージャンプ※』と共に、子どもたちの居場所にしていきたいですね」

※子どもスキップとは

地域の方々の協力のもと、放課後の児童の保育等を行う取り組みです。区内在住または区立小学校に在学している全児童が利用可能。

※中高生センタージャンプとは

主な利用対象者を中高生等とした児童厚生施設（児童館）。中高生が生き生きと活動できる場として、季節ごとのイベント等さまざまなプログラムを実施しています。

教育部 教育施策推進担当課 坂本課長 「保育園、幼稚園、小学校の連携をさらに深めていきたいと思っています。現在、区立認定こども園を新たに作る計画が進行中ですが、区立で初めてとなる認定こども園設置を見据えて、今年度から池袋小学校区域定期的に保幼小連携会を開催しています。今後、さらに内容を充実させて、私立や区立の別、保育園、幼稚園、小学校といった施設の垣根を越えて職員の交流を生み出し、施設同士の連携を充実させて、就学前教育・保育の質の向上、小学校への円滑な接続を実現したいですね」



教育部 放課後対策課 小野課長



教育部 教育施策推進担当課 坂本課長

■関連リンク

- ・[マイほいくえん](#)
- ・[アシスとしま](#)
- ・[スクール・スキップ](#)
- ・[中高生センタージャンプ](#)

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



【子育てしやすい街ランキング1位記念…第3章】
充実化する女性支援とまちの環境。
子育て世帯を応援する
まちのムードを醸成

2023.03.08

#子育て支援 #共働き #子育てしやすいまち

〔 OVERTURE 〕

女性の就業支援や企業や区役所内の男性の意識改革、公園の整備など子育てしやすいまちづくりのためにさまざまな施策を展開する豊島区。子育てしやすいまちであり続けるために今できることは何か。「文化商工部」「総務部」「都市整備部」、それぞれの観点からの取り組みと想いを伺いました。

文化商工部 生活産業課 渡邊課長「豊島区では、特技や趣味を仕事にしたいという女性への就業支援事業として『サクラヌbiz応援プロジェクト※』という全8回の起業塾を開催するほか、女性起業家同士の交流会などさまざまな機会を提供しています。ビジネスに関する支援を行う機関として、『としまbizサポ(としまビジネスサポートセンター)※』がありますが、その中で、平成27年度から女性の起業家向けに相談会を随時開催。相談件数はこの3年間でどんどん増加しています。社会進出支援においてはインプットだけでなく、アウトプットの支援も重要です。そのための機会として、ISP(池袋ショッピングパーク)にご協力いただき、ご提供いただいたスペースでサクラヌbizから2店舗出展・販売する場を実現できました。今後もアウトプットの機会を提供するため地域と連携した支援を続けます」

※サクラヌbiz応援プロジェクトとは

豊島区で起業したい、もしくは起業した事業を経営している女性を対象とした女性のための起業支援事業です。

※としまbizサポ(としまビジネスサポートセンター)とは

地元金融機関や産業団体など、関連機関が一体となり、新しい協働のカタチをとりながら中小企業を支援する施設。利用者の課題にあわせ、面談など、各種サポートを行います。

高際副区長「起業希望者を対象とした事業以外にも、子育てで仕事から離れていた方を対象とした再就職支援も行っていますよね」

総務部 男女平等推進センター 佐々木所長「女性向け再就職支援の取り組みは男女平等推進センターが中心となり、積極的に行っています。ハローワークなどと連携してセミナーや講座を年4回開催。仕事の紹介や面接支援のほか、今年度はより実践的な試みとして、ワークライフバランス推進企業に模擬面接にご協力いただきました。これらのセミナーはすべて保育付き。保護者の方も安心して自身のキャリアに集中できます。区民の方々に対するサポートのほかにも、企業向けにワークライフバランス認定制度を設け、国や東京都からの支援・助成金情報の提供なども行っています。働きやすい職場がもっと増えるよう、企業間連携の強化を目的としたワークライフバランスに関する座談会なども開催しています」



文化商工部 生活産業課 渡邊課長



男女平等推進センター 佐々木所長

高際副区長「セミナーには各回、30人前後の方がいらっしゃっています。近年はデジタル化もかなり進んでいます。デジタルに慣れていない世代の方々へのフォローにも力を入れていきたいです。区民の方向けはもちろんですが、区役所で働く職員の意識改革も重要です。」

総務部 人材育成担当課 梅本課長「ワークライフバランスの観点で、区役所の男性職員の育休取得率の高さを外部の方から評価いただきました。社会全体で育休取得を応援する動きに加え、女性管理職の増加も1つの要因かとは考えています。しかし育休取得にあたって、管理職をはじめ、職員の意識改革には依然として課題があり、マタニティハラスメントに焦点を当てた研修なども実施しています。子育て中の職員だけではなく、周りのサポートも必要であることをみんなが理解して、育休を取りやすい環境づくりを継続的に支援していきます」

総務部 人事課 木山参事「豊島区は女性職員が多く、今年度も新卒の7割が女性でした。育休制度にも通じますが、庁内がまず出産などのライフプランを考慮している前提の組織でありたいです。キャリアを中断せず家庭と両立させていくため、ただ子育てしやすいまちではなく、『共働き世帯にとって、子育てしやすいまち』だと評価され続けることが重要です。行政がまちの子育てインフラを整えることで、広く地域の皆さんや民間企業等にも「豊島区は子育てしやすいまちなのだ」という認識をもってもらいたいです。これによりもっといい意味で楽に子育てできる環境にしていきたいですね。例えば保育園の下にスーパーや総菜屋があって買い物が楽だとか」

高際副区長「意識改革は諦めずに継続していくことが必要です。特に忙しい共働き世帯にとって暮らしやすいまちになれば、自ずとほかの世代にとっても暮らしやすいまちに近づくのではないのでしょうか」



総務部 人事課 木山参事



総務部 人材育成担当課 梅本課長

高際副区長「子育てする親にとって公園の環境整備も大切だと思います。豊島区はこれまでに公園の環境整備にも力を入れてきました」

都市整備部 公園緑地課 片山課長「まち全体の整備が加速したのは、やはり2014年の消滅可能性都市の指摘を受けたことがきっかけですね。子どもと女性にやさしいまちづくりがスタートし、身近な場所からきれいな環境を整えていこうと、まずは『アートイレプロジェクト※』を実施しました。また、4つの公園を核にしたまちづくりは多くの方から好評をいただいています。そのほかの小さな公園についても、子どもたち本人の声も聞きながら、整備を進めています。また、近隣の教育機関と連携した子ども向けイベントも開催しています。草苑保育専門学校と協働で開催した水鉄砲大会は、金魚すくいのボイを頭につけて行い、大盛況でした。今後は、『としまキッズパーク※』のようなインクルーシブ遊具を区内各地に増やしつつ、公園が誰もが過しやすい第三の居場所になるように環境を整えていきたいです」



都市整備部 公園緑地課 片山課長

高際副区長「今回いただいた評価は、それぞれの部署ごとに、そして横断的に子育てしやすいまちを目指し連携してきた結果だと捉えています。これからも子育てしやすいまちであり続けられるよう、庁内で連携して取り組んでいきましょう」

※アートイレプロジェクトとは

アーティストや地域のみなさんと協力し、地域のトイレを美装化するプロジェクト。利用する方に親しみをもってもらえるようなトイレを目指します。

※としまキッズパークとは

健常な子供だけでなく、障がいにより体が不自由な子や体幹が弱い子、乳児など、分け隔てなく誰もが一緒に遊べるインクルーシブ遊具や施設のある公園。車いすに乗ったまま遊べる砂場や、ハーネスの付いた横転の心配の少ないブランコなどを設置しています。

■関連リンク

- ・サクラヌbiz応援プロジェクト
- ・としまbizサポ(としまビジネスサポートセンター)
- ・アートイレプロジェクト
- ・としまキッズパーク

—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



豊島区の「SDGsの担い手育成」を目指して。
区内の小中学校が挑んだ
取り組みの数々を振り返る。【前篇】

2023.06.12

#子ども #担い手 #ESD #環境教育

〔 OVERTURE 〕

豊島区教育委員会では、SDGsの達成を目指して「SDGs達成の担い手育成事業」に力を注いでいます。事業の「立ち上げ期」である2021～2022年度には、全30校の区立小中学校と保護者・地域・企業・大学等が連携して、SDGs達成に向けた取り組みを推進。その振り返りとして2023年6月、教育委員会主催の座談会を開催しました。豊島区教育長をはじめ、としまの教育に携わる方々のお話から、各校の個性あふれる取り組みについてご紹介します。

2030年での達成を目指すSDGs。ゴールを見据え、豊島区教育委員会が立ち上げた取り組みが「SDGs達成の担い手育成事業」です。SDGs達成のためにできることは何か。約2年にわたり、学校ごとにさまざまな角度から取り組みを進めてきました。

金子教育長「大切なのは、これからの未来を担う子どもたちの豊かな心を育むこと。2021～2022年度には予算を設け、区立小中学校全30校に分配し、各校でどんな取り組みができるのか考えてもらいました」



金子教育長



教育部教育施策推進担当課 後閑課長

教育部 教育施策推進担当課 後閑課長「企業や大学、区民の方々などさまざまな主体を巻き込み、各校がユニークな取り組みを展開しています。例えば、豊成小学校では株式会社良品計画と協働し、防災やフードロスに関する授業を行いました。PTAによるフードドライブ活動にも力を入れています。また、朝日小学校は大正大学と連携し、校内の緑化活動を始めとする環境学習に取り組みました。千川中学校では地域消防団と協力し、中学生によるD級ポンプ(※)消火隊を組織。『自分たちの地域は自分たちで守る!』というスローガンの下、防災を体験的に学んでいます」

※D級ポンプとは

地域住民が使用できる小型の消火装置。1分間に130リットル以上放水でき、高い消火能力を持ちます。操作方法是易しく、取り扱いを覚えれば少人数での操作も可能です。地域の町会や自治会、消防団の倉庫、学校などに配置されています。

学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏「持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)が、こんなに早く区内の小中学校に浸透したことは驚きを隠せません。今後は各校の取り組みが子どもたちや地域に与えた影響を、客観的な指標をもとに評価してほしいですね。また、豊島区は先進的な『SDGs未来都市』として、国内の自治体に担い手育成の視点を示すことが重要です。ユネスコスクールなどに加盟し、世界各国の学校と交流することも提案したいです。地域と学校が密接に関わる、豊島区ならではのESDを全面に押し出してほしいと思います」



学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏



SDGs環境教育アドバイザー 榎野氏

環境の観点からお話を聞かせてくれたのが、SDGs環境教育アドバイザーの榎野氏とSDGs環境学習リーダーの町田氏です。

SDGs環境教育アドバイザー 榎野氏「千早小学校では、子どもたちだけでなく区民ひろばの方も活動に加わり、地域一体の取り組みを進めています。要小学校では、里山をイメージした植物を植えて『要の小径』を実現。目白小学校では名産である江戸東京野菜の『雑司ヶ谷なす』の地産地消を目指す取り組みを始めました」

SDGsの17ゴールの範囲は幅広く、何から手を付けるべきか悩む声も聞かれます。そこで子どもたちには、“People(人間)、Prosperity(豊かさ)、Planet(地球)、Peace(平和)、Partnership(パートナーシップ)”の5つのPの枠組みで考えるようにおススメしているのだとか。

SDGs環境学習リーダー 町田氏「清和小学校で20年以上続く『ヤゴ救出大作戦』。この取り組みでは、プール掃除の前に子どもたちが網で水生昆虫をすくい、観察しています。水を貯めたプールはヤゴなどの水生昆虫にとって良いすみかですが、プール開き前の掃除で排水すると、その命を奪ってしまいます。当時は保護者という立場でしたが、生き物の命を守る取り組みとして、学校に声をかけ、子どもたちと保護者が参加して活動がスタートしました」

続く後篇では、豊島区が育んできた「担い手」たち、そして子どもたちの活動のこれからについてより深くお話しします。



SDGs環境学習リーダー 町田氏



—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

「としまメソッド」を編み出し、
誰もが主役の豊島区から
明るい未来の「担い手」を育む。【後篇】

2023.06.12

#子ども #担い手 #ESD #環境教育

[OVERTURE]

豊島区教育委員会による「SDGs達成の担い手育成事業」の「立ち上げ期」となった2021～2022年度。区内の小中学校では、多様な取り組みが進められました。2023年度以降は「推進・発展期」として、より一層の充実化が期待されています。さらなる発展を遂げるにはどうすれば良いのか。豊島区におけるSDGs・ESD(持続可能な開発のための教育)の未来像を考えます。

この2年でSDGs達成に向けた取り組みについて、深く理解したとしまの子どもたち。そんな担い手たちからさらに幅広い世代へSDGsへの理解と達成に向けた活動や取り組みが広がっていくことにも期待が寄せられています。

澤田教育部長「保護者の方々から『SDGsが子どもたちの将来にどんなメリットを与えるのか』と疑問を寄せられることもあります。大人に向けて持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)の意義を伝える難しさを痛感しています」

金子教育長「豊島区の子どもたちはSDGsネイティブですが、親世代は必ずしもそうではありません。大人がSDGsを自分ごととして捉えるには、地球が絶体絶命の状況にあるという危機感を持つことが重要です。実際、豊島区は2014年に『消滅可能性都市』の指摘を受けたことで強い危機感を抱き、持続発展するまちづくりに取り組むようになりました」

学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏「気候変動を始めとする環境問題や戦争など、世界には一朝一夕に解決できない問題があふれています。だからこそ、子どもたちが未来の希望を信じるためにSDGsが必要なのです。一方で、大人向けのESD(持続可能な開発のための教育)が不十分だという状況も見逃せません。子どもからSDGsを伝える、地域各所にSDGsにまつわるチラシを設置するなど、さまざまな手段でSDGsに触れる機会を増やすことが大切ではないでしょうか」

SDGs環境教育アドバイザー 桝野氏「私も、豊島区でSDGsの活動を発展させるには保護者を始めとする、大人のためのESD(持続可能な開発のための教育)が必要だと感じます。『人新世』という言葉に代表されるように、現在は人類の活動が地球に取り返しがつかないほど大きな変化をもたらしている時代です。そうした危機感を出発点にすれば、SDGsの取り組みがさらに広がるのではないのでしょうか」



金子教育長



澤田教育部長

子どもたちが地域の人々と交流する機会を設けているのは、小中学校だけではなく、SDGs環境学習リーダーの町田さんは、自身がボランティアとして参加する区民ひろばの活動をこう語ります。

SDGs環境学習リーダー 町田氏「区民ひろば清和第二で年2回開催しているのが、乳幼児とその保護者に向けた『生き物を見よう』というイベントです。ヤゴやバッタ、チョウといった生き物を室内に持ってきて、参加者に観察してもらっています。身近な場所で環境学習ができることはもちろん、子育て中の方々の孤立防止につながるという点でも、非常に意義のある取り組みだと思います」



学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏



SDGs環境教育アドバイザー 桝野氏

区内のさまざまな場所で、加速する未来のためのアクション。その中には、区内の他の学校やエリアで実践できる事例も数多く含まれているはずです。

学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏「2年間で各校の特色ある取り組みが広がったことは素晴らしいと思います。これまでの実績を活用すれば、豊島区ならではのSDGsの取り組み、いわば『としまメソッド』を編み出せるのではないのでしょうか。そして、そのためには各校の取り組みを共有することが欠かせません。教員の異動などをきっかけに活動が途絶えてしまわないよう、日頃から教員と地域の方々が密に交流できるようなまちのかたちが重要です」

小中学校の児童・生徒に加えて、その保護者や地域住民、乳幼児までもを対象にした豊島区のESD(持続可能な開発のための教育)。「誰一人取り残さない」取り組みの数々が、地域のこれからの明るく照らしてくれることでしょう。



SDGs環境学習リーダー 町田氏



—— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

子どもも、大人も、ほっこりできるひと時を。
地域と一緒に子どもを育てる「としま子育てサロン」



2023.12.06

#子ども #子育て支援 #コミュニティ #福祉

〔 OVERTURE 〕

豊島区では、地域住民を支援するボランティアである民生委員・児童委員の方たちが数多く活躍しています。その活躍の場のひとつが、各地域の区民ひろばで開かれている「子育てサロン」。今回は区民ひろば駒込に足を運び、民生委員・児童委員の子育て支援部会長、比留間委員と巣鴨地区民生委員児童委員協議会の田中会長にお話を伺いました。

Profile

比留間 恭子

Kyoko HIRUMA



東京都民生委員・児童委員。巣鴨地区を担当。子育てサロン「さくらんぼ」の運営のほか、講師として工作や折り紙などモノづくりを教えることも。自身の子育ての経験を生かし、子どもと保護者双方のサポートを意識して活動している。駒込の好きなところは、下町情緒あふれる街並みとのんびりした土地柄、桜が街中で咲き乱れる春の景色。

気軽に、無理なく、楽しく、自由に――

豊島区では、各地域の区民ひろばで定期的に「としま子育てサロン」が開かれています。用意されているプログラムは回によってさまざま。絵本の読み聞かせや手遊び、ものづくりから、育児に関する情報共有まで、幅広く用意されています。

今回伺ったのは巣鴨地区の子育てサロン「さくらんぼ」。妊娠中の方を含め、0歳から3歳までの子どもとその保護者を対象に、月1回のペースで開催されています。

今日は、子育てサロン恒例の手遊び歌に続いて、ぬいぐるみや小道具を使った観劇会が行われました。外部の人形劇団ポケットの皆さんが、ピアノや音楽を用いながらさまざまなお話を繰り広げていました。楽しいパフォーマンスに、子どもたちの目は釘付けです。



プログラムが終わった後はフリータイム。自由に保護者同士で交流するほか、食事をとることも可能。民生委員・児童委員と一緒に、利用者が赤ちゃんの身長体重測定を行っている姿も見られました。

実はこの時間も子育てをサポートする重要な役割を担っている、と民生委員・児童委員の比留間さんは話します。

比留間委員「ずっと子どもと二人きりで向き合っていると、ストレスが溜まってしまう事もあると思います。子育てサロンは、子どもだけではなく大人もサポートの対象。民生委員・児童委員や他の利用者との交流を通じて、外部との繋がりを作ってもらうことも大事な目的の一つなんです」

田中会長「利用者の方の中には、複数の区民ひろばで子育てサロンに参加される方もいらっしゃると思います。やはりこういった場が必要とされているということではないでしょうか」

また、民生委員・児童委員としての活動についてこう語ります。

比留間委員「活動が続けていると、昔子育てサロンを利用していた保護者の方が道端で声をかけてくださることも。『あの時は助かった、ありがとうございました』と言われると、とても大きなやりがいを感じますね。」

地域のサポートを生かし、みんなで育てていく。
としまの地域全体が、あたたかく子どもたちを見守っています。



民生委員・児童委員 子育て支援部会長 比留間委員



巣鴨地区民生委員児童委員協議会 田中会長



比留間委員特製ケーキのおもちゃ。子どもたちの誕生日をお祝いすることも

〔 NEWS 〕

としま子育てサロンについてみよう!

「としま子育てサロン」は、身近な地域で子育て中の親子が集い、交流することにより、仲間づくりや互いに育ち合うことができる場です。

―― 関連するSDGs ――



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」。
それは、としまが目指す
国際アート・カルチャー都市のすがたです。
大切にしているのは、
豊島区に住む人、訪れる人、働く人、学ぶ人、
それぞれの「笑顔」。

これまで豊島区が大切にし、守り続けてきた
あたたかい日常を育む文化は
誰一人取り残さない社会を目指すSDGsに通ずるもの。
豊島区では、「みんなが主役」をキーワードに、
より一層「オールとしま」のつながりを強め
SDGs達成に向けたアクションを進めていきます。

そして迎える翌年、100周年のとしまのまちを、
みんなで一緒に、笑顔で誇れるように。

2022年に区制90周年を迎えたとしまのまち。
100周年に向けた「としま新時代」のスタートとしてのこの1年を、
「区民実行委員会」と「企業実行委員会」で構成される
『区制施行90周年実行委員会』を中心に、オールとしまの体制で90周年を盛り上げました。



としまの90周年の取り組みを詳しく知る

各種事業について

シンボル事業



「過去に学び、今日に生き、未来へ希望をつなぐ」を体現し、90周年を象徴する事業です。主に区が主催します。

パートナーシップ事業



区民団体などが、90周年を記念して新たに実施する事業や、従来の規模等を拡大して実施する事業です。区から一定額を助成します。

フレンドシップ事業



豊島区制施行90周年事業に賛同し、PRしていただく事業です。区からロゴデータの提供、のぼり旗、横断幕の貸出などを行います。

SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

2022年
みんなでつくる90周年



としま区制90周年

区民実行委員会とは

区民実行委員会は、としまのまちを愛し、深く関わってきた
新聞の方と、委員の方計約300人と一緒に取り組む委員会です。
60近くの部会に分かれ、それぞれで90周年を盛り上げていきます。

ファーマーズマーケット	第30回豊島区伝統工芸展	第16回としまM.ONOづくりメッセ	としま商人まつり
東京フラフェスタ in池袋	ふくろ祭り	池袋ジャズフェスティバル	大塚阿波おどり
おおつか音楽祭	大塚バラ祭り	ふくろ祭りで国際交流のおみこしを担ごう	すがも中山道菊祭り
雑司が谷七福神めぐり	御会式連合会	すすきみみずく保存会	としま案内人
梟の樹を創る会	街中まるごと - デザインミュージアム-池袋	町会 セミナー	区民ひろばで広がる90周年
高齢者クラブ連合会60周年記念事業	としまコミュニティ大学	第17回社会貢献見本市@SDGs	ふるさと千川どんど焼き
大明まつり	食でつながる地域の輪	地域ブランド創造	「IKEBUKURO LIVING LOOP」
ウォークアブルなまちづくり	としま未来図展	合同防災訓練及び防災フェス	豊島区交通安全区民のつどい
セーフコミュニティ活動	Tokyo Music Evening Yube	GLOBAL RING音楽祭	池袋オータムカルチャーフェスティバル
トキワ荘協働プロジェクト協議会イベント	大正大学附属図書館×豊島区立図書館イベント	池袋モンパルナス回遊美術館	ONE Billion Rising
フレイルで予防でいきいき100歳	すすらんスマイルプロジェクト	ふくし健康まつり+	としま子ども若者応援プロジェクト
としまオレンジングフェスタ	豊島区教育委員会「SDGsフェスティバル」	調べる学習コンクール in としま	第45回わんぱく相撲豊島区大会
としま子どものつどい（ワンパクまつり）	豊島区子ども未来国連	ホームスタートわくわく 家庭訪問型子育て支援	としまスポーツフェスタ（としまスポーツまつり）2022
目白ロードレース	としま“まちキレイ”プロジェクト	ごみ減量推進プロジェクト	さくらプロジェクト
「いのちの森」記念植樹2022	ウィロード清掃ボランティア	Clean Up Otsuka（クリーンアップ大塚）	SDGs未来都市プロジェクト
90周年記念式典	記念誌作成	豊島の記憶	はたちのつどい

SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

企業実行委員会とは

区制90周年を「オールとしま」で盛り上げるべく立ち上げられた企業主体の組織です。
地元企業のほか区外からの企業も参加し、合計約280社が所属しています(2022年9月時点)。
定期的に委員会を開催し、としまのまちづくりや今後についての意見交換・新規企画を行っています。



発起人会の発案でスタートした 「オール企業としま」

豊島区は、区制90周年を区全体が一丸となって盛り上げようと「公民連携」「民民連携」「オールとしま」の姿勢を掲げてきました。そのような中、企業同士が連携して各社の強みを集結させ、まちづくりへ還元していこうという「オール企業としま」の構想へ発展。企業実行委員会の設立につながりました。

企業実行委員会



企業実行委員会の活動

「SDGs」を知る



豊島区は2020年、都内で初めて「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」にダブル認定された自治体です。区内にとどまらず、区外、そして全国にSDGsの活動の輪を広げる先導者となるべく、多様なステークホルダーを巻き込みながらSDGsセミナーや意見交換を行っています。

「アート・カルチャー」を知る



豊島区は、文化を中心に持続発展する「国際アート・カルチャー都市」を目標に掲げており、誰もが主役になれるまちづくりを目指しています。その取り組みの一環として、参画企業が持つ施設や会場にて文化や芸術、まちづくりをメインテーマとしたセッションを開催する予定です。

「アートカルSDGs 特命大使」へ



参画企業の中でご賛同いただける方を国際アート・カルチャー 特命大使／SDGs特命大使に任命し、90周年以降の継続的な活動を依頼しています。「国際アート・カルチャー都市」「SDGs未来都市」の実現に向けた活動の担い手となり、今後のまちづくりを盛り上げていただきます。

企業実行委員会の関連記事



2024.02.28
より良いチームとしまのためのリスタート。第四回全体会を開催。

2024年2月末、池袋サンシャインシティにて、令和5年度の最後を締めくくる「…



2024.01.23
チームとしまWell-being City 豊島区構想プレゼミナー

チームとしまの有志企業にて2024年度から実施を予定している勉強会。それが、…



2023.12.12
強みや課題をシェアする チームとしま 第三回全体会

定期的に開催されている、「チームとしま全体会」豊島区を舞台に…

さらに詳しく知りたい企業の方へ

企業実行委員会にご参画いただいている企業の方

企業実行委員会にご興味のある企業の方

【お問い合わせ先】 A0050002@city.toshima.lg.jp

SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています